

2 米國関税法改正問題

198 昭和3年12月8日

在ニュー・ヨーク原(明治郎)商務書記官より
田中外務大臣宛(電報)

米國議會における関税法改正問題審議の予定
並びに日本側関係業者の対策用意方喚起

ニュー・ヨーク 12月8日後発
本 省 12月9日前着

第九一号

往電第八四号ニ関シ

米國関税法改正ハ今期議會ニ於テハ先ツ明年新大統領執政後特別議會ヲ召集スルノ要アルヤ否ヤ又召集ヲ必要トスルニ於テハ其ノ時期及改正案ノ性質並程度等ヲ議シ予メ方針ヲ樹立スル事ニ決シ下院ニ於ケル歳入手段方法委員ハ明年一月七日ヨリ二月二十五日迄ノ間ニ各國関係商品ニ付当業者ヨリ実状ヲ聴取スルコトヲ決議ス右改正カ農業保護関税ノ設立ニ終ルカ保護及収入ヲ目的トスル一般の改正ニ巨ルカハ右聴取後ノ決定及今後ノ議會ノ形勢如何ニ待ツヘキモ聴取ヲ行ハルヘキ商品中ニハ生糸、絹織物、陶器、木材製

品、農産物、綿製品、麻製品、紙類、化学工業品及雜貨等

ヲ含ミ本邦商品ニシテ税率引上ノ惧アルモノ鮮カラス尚改正案ニシテ從來モ時々問題トナリシ輸入品評価ノ基礎カ類似品ノ米國內地価格或ハ輸入品ノ米國內売値ニ置カルルカ如キコトニ決定セラルル場合ニハ特ニ絹織物、陶器、雜貨等ニ及ホス影響甚大ナリ

既ニ当地関係業者トハ右対策ニ関シ種々協議ヲ進メ居レルカ右ハ本邦ニ取りテ重大ナル意味ヲ有スルヲ以テ本邦関係業者ニ於テモ形勢ノ如何ニ応シ適當ナル方策ヲ講シ得ル様予メ用意シ置クコト肝要ナリト信セラル
米、桑港へ暗送セリ

199 昭和3年12月22日

在ニュー・ヨーク原商務書記官より
田中外務大臣宛(電報)

米國輸入関税引上げの影響が予想される日本
商品について

第九六号
往電第九一号ニ関シ

ニュー・ヨーク 12月22日前発
本 省 12月23日後着

今次ノ米國関税改正ニ伴ヒ引上ノ惧アル本邦商品ニ就キ今日迄ニ調査セル所ニ依レハ生糸ハ関係ナキモ広巾絹物業者ハ現行従価稅ヲ従量稅ニ改訂ヲ運動シ之ニ依リ関税引上ノ目的ヲ達セントス従量稅ト為ラハ絹紬ノ如キ打撃多カルヘシ当業者ニ於テ既ニ対策協議中ナリ陶器ニハ亜米利加評價ヲ採用スヘシトノ運動久シク米國製造業者間ニ有力ニテ本邦商ハ既ニ対策ヲ講シツツアリ大豆油ハ前年議會ノ討議ニ引續キ農民議員間ニ十二仙半課稅論行ハレ之ニ伴ヒ混合油及菜種油、魚油亦相当ノ引上ヲ見ル惧アリ輸入豆類ノ関税引上ノ形勢ニ対シテハ米國輸入商ニ於テ対策協議中ナリ樟腦ハ独逸合成樟腦業者ニテ合成一封六仙ノ税率ヲ天然粗製同様一仙ニ引下ノ運動ヲ為シ容レラレスハ天然粗製ヲ六仙ニ引上ヲ策セントスルノ形勢ニアリ依テ本邦商ハ米國大口売込先ト提携シ阻止運動中ナリ蟹缶詰ニ就テハ曩ニ日本連合会ヨリ申出アリタルカ未タ引上運動ノ具体化セルヲ聞カ

サルモ本邦側ニ無稅ヲ希望スル向モアリ本邦商間ニ於テ米國当業者ヲ利用シ引上運動ニ対抗シ機ニ臨テハ引下ヲ策スルノ準備ヲ進メツツアリ其ノ他麦稈帽子及「ハッピー・コート」類ノ税率引下運動アリ詳細郵報ス
右関係商品ノ本邦製産原価輸出統計其ノ他製産事情ニ関スル最近調書御取纏メ郵送ヲ請フ
華盛頓、桑港へ暗送セリ

200 昭和4年3月14日

田中外務大臣より
在ニュー・ヨーク内山総領事代理宛
(電報)

米國関税引上げに対する日本側反対運動の
進め方について

付記 昭和四年三月一三日

外務・農林・商工各省関係者間米國関税改正対策打合せ會議

本 省 3月14日後発

第二二号(極秘)

原商務書記官へ

今次ノ米國関税改正ニ関シテハ貴官御報告ノ都度当業者ニ

周知セシムルト共ニ本邦関係商品ノ説明資料ハ隨時貴官宛
 送付シ居ルル米米農民及製造業者ノ関稅引上運動相当有力
 ナルト他方今日迄提起セラレタル本邦関係品ノ稅率引上ノ
 程度極メテ苛酷ナルタメ本邦関係業者ハ一方ナラス憂慮シ
 居ルモ此際本邦ニ於テ宣伝的對抗運動ヲ試ムルモ何等実益
 ナキノミナラス反テ米國側ノ感情ヲ刺戟シ事態ヲ紛糾セシ
 ムル俱モアレハ関係業者内密ノ運動以外ニハ可成此種運動
 ヲ差控ヘシメ專ラ米國ニ於ケル本邦品取扱業者ノ對抗運動
 ニ期待ヲ繫キ居ル次第ニシテ貴官ニ於テモ前広ニ右ノ趣旨
 ニテ御措置相成リ居ルコトト存スルモ既ニ本件ニ関スル特
 別議會モ四月十五日ニ召集ノ由ナレハ此際出来得ル限り有
 効ナル緩和的方法ヲ講シ度キニ付本邦側ニ於テ今日以上ニ何
 等処置スヘキコトアラハ至急御回電アリ度尚貴地ニ於ケル
 關係業者ノ對抗運動ハ本件解決上最モ重要ナリト思考セラ
 ルニ付從來ノ經過並ニ今後ノ模様漏ナク隨時電報セラレ度
 シ

華府、桑港、市俄古、「シヤトル」、「ポートランド」、羅府
 へ電報アレ

二、在紐育原商務書記官ヨリ稟請ノ本邦関係商品ノ説明資
 料未完了ノモノヲ至急調製本省ニ送付スルコト(兩三日
 中ニ全部完成ノ筈)

三、在米出淵大使ヨリ送付ニ係ル関稅改正ノ聴取会ノ報告
 ヲ主管省別ニ分担シ本邦商品ニ関スル部分ノ摘要ヲ作製
 シ当業者ニ周知セシムルト同時ニ之ヲ基礎トシテ対策ヲ
 講スルコト

四、北海道農會ヨリ直接在本邦米國大使宛ニ菜豆ノ関稅引
 上ニ反対スル陳情書ヲ提出セルカ從來本件ニ関シテハ関
 係業者ノ内密運動以外ニハ斯ル運動ヲ差控ヘ居ル關係上
 右ノ如キコトアリテハ陳情セルモノト陳情セサルモノト
 ノ間ニ輕重ヲ付セラルルル惧アレハ外務次官等ヨリ米國大
 使館側ニ対シ適宜ノ方法ニテ本邦商品中打擊ヲ蒙ル虞ア
 ル品目ニ付可然説明シ頂ク等何等カノ方法ヲ講スルコト
 五、差シ当リ本件對抗策ノ具体的調査ニ入ルニ先キ別添本
 月十三日付起案ノ電報^{編註}ノ趣旨ヲ原商務書記官ニ通達スル
 コト

編註 同電報は、三月一四日付田中外務大臣ヨリ在ニユ
 一・ヨーク内山總領事代理宛電報第二二号である。

三 通商問題

(付記)

米國関稅改正ニ対スル対策構想ニ関スル關係省
 係官會合

昭和四年三月十三日午後二時通商局第六室ニ會合

出席者

本省 西通一課長

若松商務書記官

農林省 藤巻技師

商工省 長崎貿易課長

菱沼事務官

米國特別議會案外早ク(四月十五日)開會ノコトトナリタ
 ルニ付不取敢打合會ヲ開ク

右會合ニテ話合ヒタル事項

一、從來ノ報告ニ基キ關係省ニ於テ最モ関稅引上ヲ憂慮シ
 居ル品種

農林省關係 菜豆、綠茶、除虫菊、薄荷腦、百合根、

蜜柑

商工省關係 絹織物、陶磁器、セルロイド製品(特ニ

櫛、刷子、玩具) 大豆油、麥稈及麻真田

201 昭和4年3月18日

在米國出淵大使ヨリ
 田中外務大臣宛

米國上院議員の問合せに對するわが方の対応

について

普通公第二〇七号

(4月12日接受)

昭和四年三月十八日

在米

特命全權大使 出淵 勝次(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

米國関稅改正案ノ日本ニ及ホス影響等ニ関シ

上院議員「トーマス」ヨリ問合越ノ件

米國上院議員「エルマー・トーマス」氏(「オクラホマ」州
 選出民主黨)ハ二月二十日付書翰ヲ以テ同氏上院財政委員
 タル關係上今次米國関稅改正法案中各種条目ノ日本産業及
 日米貿易關係ニ及ホス影響等ニ関シ知悉シ度キニ付之等問
 題ニ付談合シ得ヘキ適當人物及其住所ヲ通知越有度キ旨別
 紙^{省魁}写甲号ノ通照會シ来リタル処右ハ関稅改正ニ伴フ我方意
 見等ヲ説明シ得ル適當ナル機會ナルヲ以テ先方申出ニ応ス
 ルコト可然モ當館其他我方官憲ニ於テ直接之ニ関与スルコ

ニュー・ヨーク 3月29日後発
本 省 3月30日後着

ト面白カラス結局在紐育有力日本当業者中ヨリ適任者ヲ選定推挙セシムルコト適当ナリト思考シタルニ付紐育原商務書記官ニ右様取計方申入レタル処其結果同官ヨリ三井物産会社紐育代表者田島繁二氏推挙方決定セル旨回報アリ仍而其旨別紙乙号写^(省略)ノ通右「トーマス」氏ニ通報シ置キタル処更二十五日付來翰ヲ以テ同関稅改正ノ条項等ハ同案カ下院ヲ通過シ上院ニ廻付セラルル迄ハ其内容等ヲ充分知悉シ得サルヲ以テ其上ニテ田島氏ト欣テ談合スヘキ旨別紙丙号写^(省略)ノ通報シ來レリ此段報告申進ス

尚新聞紙ノ報スル所ニ依レハ「トーマス」氏ハ関稅率變更ニ關係ヲ有スル在当地各国大使館ニ当方ニ申越シタルト同様ノ申入レヲ為シタル由ニテ多数大大使館ヨリ回答ヲ得タル由ナリ

202 昭和4年3月29日 在ニュー・ヨーク原商務書記官より
田中外務大臣宛(電報)

関稅改正案の日本商品への影響につき在米商社員を通じてジョンソン國務次官補に説明

就テハ内山總領事代理宛貴電第二二号御來示ノ次第モアリ右ニ関シ何等カ本邦側ニ於テ希望モアラハ具体的ニ商品及説明事由ヲ示シ御回電アリタシ

尚右同様ノ趣旨ハ田島ヲシテ民主黨員上院財政委員「エルマー・トーマス」氏ニ説明セシムル手筈ヲ了シ更ニ共和黨員側ニモ適當ニ接觸セシムル様計画中ナリ

米、桑港、「シカゴ」、「シヤトル」、「ポートランド」及「ロサンジェルス」へ転電セリ

203 昭和4年4月11日 在ニュー・ヨーク原商務書記官より
田中外務大臣宛(電報)

在米商社員による國務次官および上院議員への

説明続報

ニュー・ヨーク 4月11日後発
本 省 4月12日前着

第三〇号

往電第二五号ニ関シ

五日田島ハ國務省ヲ訪問今次引上請願ノ関稅率ニ基キ本邦品三十余种ニ係ル影響ノ程度ヲ詳説シ前電報告ノ事情ノ外

第二五号

米國関稅引上問題ノ経過並ニ本邦側ノ緩和運動ニ関シテハ屢次電報ノ通ナルカ下院歳入委員会ハ前月ノ公開聴取會後目下改正法案ノ作成中ニテ米國当業者ハ各方面ニ引上運動ヲ試ミ居レルモ実情ニ通スルモノハ大勢ニ於テ改正ノ主点ハ前電報告ノ通一部ノ者ニ限ラルヘシトノ観測ヲ持セリ

右緩和方ニ関シテハ其ノ後引続キ当業者ト熟議ヲ重ネタル結果当業者個々ノ運動ノ外ニ三井田島氏ヲシテ本邦当業者全般ノ利益ヲ代表シ國務省ヲ通シ米國当局ニ今次改正案ノ本邦商品ニ及ホス影響ヲ説明セシムルコトトシ大使ノ紹介ニ依リ來週水曜日頃國務次官補「ジョンソン」ニ面會セシメ改正案ノ本邦産業貿易ニ及ホス影響ヲ各商品ニ付説明スルト共ニ兩國間貿易ノ進暢カ相互ノ利益ナルコト米國當業者主張ノ引上案カ禁止のナルコト本邦ヨリノ輸出品カ原料品又ハ一般階級ノ需要品ナルコト及現行率カ既ニ高率ニシテ保護ノ目的ヲ達シ輸出額カ連年減少セルコト等ノ事情ヲ懇談シ現行据置ノ希望ヲ述ヘシムルコトトセリ

ニ米國評価採用セラルル場合ノ影響著シキ点ヲ加ヘ種々懇談ニ及ヒ六日更ニ大使ノ紹介ニ依リ共和党上院議員ニシテ財政委員タル「カイエス」氏ニ同様ノ説明ヲナシタルカ何レモ巨細ニ之ヲ聴取セリ尤モ國務省側ハ他ノ關係当局ニ対シ表立チテ直ニ何等ノ方法ヲ取ラサリシモ説明ヲ諒トスル旨ヲ答ヘ「カイエス」ハ目下法案ハ下院ノ手ニテ作製中ナルモ今後本邦側カ何等不公平ナル待遇ヲ受ケタリト感セラ

ル場合ハ何時何度ニテモ引見ヲ辞セサル旨ヲ語レリ今後何時ニテモ田島ヲシテ上下両院議員其ノ他ニ適當ノ連絡ヲ取ラシムヘキ考ナリ

尚在米國大使宛貴電第一二〇号末段ニ関シ

(一)関稅法案ハ目下下院歳入委員会ニ於テ作成中ナルカ仮ニ下院案ニ採用セラレサリシトスルモ上院ニ於テ新ニ賦課セラルル場合アリ品目稅率等ニ関シ下院ノ現状ヲ重視シ最後ノ結果ヲ予測スルハ却テ誤多カルヘキノミナラス委員會會議事ハ絶対ニ秘密トセラレ世上ノ風評ハ何等新法ニ触レ居ルモノニ非ス一般ノ形勢ハ累次往電ノ通但シ最近引上運動相当優力ナル為一般的改正ニ及フ虞アリト云ハレツツアルカ十五日議會開會時ノ大統領教書ニ依リ其ノ

範囲等多少明瞭トナルヘシ

(二)薄荷ハ今日迄ノ処合成薄荷業者側ニ何等ノ運動ナシ除虫菊又然リ百合根ハ既ニ往電第一九号中報告ノ通尚下院歳入委員聴取会ニ係レル本邦品関係詳細ハ三月二十一日及四月五日付郵送セルモ蜜柑ニ就テハ一封度二仙但シ從価四割五分ヲ下ラサル課税即チ現行税率ニ比シ十割増加課税ノ請願アリ其ノ他造花ニ対シ九割以上「ミンク」毛皮ニ対シ三割五分金魚ニ対シ三割三分三分ノ一以上蛤岳詰ニ対シ三割五分竹及籐製籠其ノ他製品ニ対シ九割木綿襪樓ニ対シ一封度四仙竹製釣竿ニ対シ三十割魚網ニ対シ五割製帽用真田漂白或ハ色染済ミノモノニ対シ三割刺繡品ニハ從価從量税併用等雜貨類ニ対スル税率引上ノ請願アリ

華府、桑港、市俄古、「ポートルランド」、「シヤトル」、羅府ヘ転電セリ

204 昭和4年4月18日

在米国外務大臣宛(電報)

フーヴァー大統領の教書要領につき報告

Boardヲ設立シ之ニ必要ノ資金ト権限トヲ賦与シテ生産販売金融其ノ他農業救済ニ関スル当業者自身ノ施設ニ対シ援助ヲ与ヘシムヘシ農業関係以外ノ関税問題ニ付テハ現行関税法制定後ニ於ケル經濟的變動ノ為関税率及関税法ノ行政的規定ニ対シ limited changeヲ加ヘルノ必要生シタリ尤モ右改訂タル保護関税ノ新基本ヲ制定スルカ如キモノニアラスシテ外国品トノ競争等ノ為最近数年間不景氣ニ沈淪シ多数ノ失業者ヲ出シ居ル或種ノ産業ニ対シ救済ヲ与ヘムトスルニ過キス又本件改訂ハ米國ノ輸出貿易其ノ他大局上ノ利害ヲ打算シ決定スルヲ要ス次ニ関税法ノ行政的方面ニ関シテハ関税委員会ノ組織ニ変更ヲ加ヘルト共ニ「フレキシブル・タリフ」ノ適用ニ関スル同委員会ノ決定ニ必要ナル時間ヲ短縮スルヲ為該決定方法ヲ一層自動的且包括的ノモノト為スヘシ將又従来ノ評価方法ニ欠陥アルコト漸次判明シ来リ現ニ under valuationノ案件存スル処右 under valuationハ外国当業者ノ帳簿ニ依ラスシテ之ヲ発見スルコト困難ナル一方該帳簿検査ハ屢々対外紛争ノ原因トナリツツアリ又近時外国生産業者ニシテ其ノ製品ヲ委託販売ノ方法ニ依リ米國ニ輸入スルモノ増加シ来レル処之亦評価ヲ困

別電 昭和四年四月一八日着在米国外務大臣宛第一一八号

田中外務大臣宛第一一八号
大統領教書中関税問題要約

ワシントン 本 省 4月18日後着 発

第一一七号

往電第八七号ニ関シ

十五日特別議會開催十六日「フーバー」大統領ハ要領別電第一一八号ノ教書ヲ送レリ尚本特別議會ノ開期間ニ付テハ觀測区々ニシテ七月迄又ハ十月頃迄モ継続スヘシト見込ミ居ル者アリ相当長引クヘシト認メラル

別電ト共ニ英、仏、伊、白、独、露ニ郵送セリ

(別電)

ワシントン 本 省 4月18日後着 発

第一一八号

農業救済問題ニ付テハ外国農産物ノ米國品ニ対スル競争愈々激甚ヲ加ヘ来レルノ状況ニ顧ミ米國農業者カ農産物関税ノ引上ケヲ要求スルハ極メテ自然ナリ尚Federal Farm

難ナラシムル事由ナリ依テ是等ノ場合ニ処スル為此ノ際一層壓実ナル評価ノ基礎ヲ定ムルコト希望ニ堪ヘスト為シ最後ニ本議會ノ主要議題ハ如上ニ付ナルカ右ノ外移民法中 national originニ関スル規定ノ適用停止問題等前期議會以來ノ懸案ニシテ研究立法ヲ要スルモノアルト結ヘリ

205 昭和4年4月27日

在ニュー・ヨーク原商務書記官より
田中外務大臣宛(電報)

米國輸入関税引上げに對するカナダ等の反対

並びに米國貿易関係者の要望

ニュー・ヨーク 4月27日後発
本 省 4月28日前着

第三五号

米國関税改正問題惹起以來諸外国ニ於ケル之カ對抗又ハ緩和運動ニ関スル報道ヲ見ルニ加奈陀ハ總理大臣議會ニ於テ米國関税引上提案ニ対シ報復手段ヲ取ルヘシト主張シ大蔵大臣ハ米國大統領ヲ訪問シ「セント・ローレンス」運河利用問題カ関税問題ニ重要關係ヲ有スル旨ヲ陳述シ波斯公使ハ數物関税引上緩和ニ対シ國務省ニ覚書ヲ提出シ仏國ハ米

国政府トノ從來ノ関税引下交渉ヲ利用シテ税率乃至評価法ノ緩和方ニ付申入ヲ爲シ垂爾然丁ハ農産品ニ対シ埃及ハ綿花ニ対シ白耳義ハ「セメント」板硝子等ニ対シ玖馬ハ砂糖ニ対シ国内関係業者ノ反対運動ヲ伝ヘラレ英国、仏国、独逸、伊太利、白耳義等欧州諸国ノ工業家ハ協議ノ上米国評價採用ニ反対シ又知恵古硝子製品業者ハ欧州諸国ヲ勸説シ米国自動車輸入防遏ニ依リ共同報復手段ヲ講セント計画中国旨モ伝ヘラルル等夫々公私ノ機関ヲ通シ米国側ニ対抗運動ヲ行ヒ居リ最近ニハ英国大使ハ英国「ヨークシア」商業會議所ノ爲ニ毛糸及毛織物ニ対スル関税引上阻止方ヲ國務省ヲ通シ下院委員会ニ申入レタル由報セラルル上下両院關係委員ノ多クハ関税問題ハ国内問題ナルノ故ヲ以テ外国側ノ抗議等ニハ一切傾聴セサルカ如ク声明シ居レルカ大統領ハ教書中ニ特ニ今回ノ関税改正ニ対シ外交關係ヲ考慮スルノ要アル事ヲ説キ上院財政委員「トーマス」モ米国海外投資確保ノ見地ヨリ排外的関税引上ニ反対ヲ唱ヘ居リ過般「ボルチモア」ニ於テ開催ノ貿易大会ノ決議中ニモ関税引上カ対外關係ニ及ホス事ヲ恐レ且引上ニ依ル輸入減少ハ米国海運ニ直接影響スル処大ナル点ヲ指摘シ関税引上反対

第一(一) 大豆油一封度ニ付五仙

(二) earthen ware 中裝飾付従価五割五分無裝飾従価五割

(三) 陶磁器裝飾付及無裝飾共ニ従価七割及六割ニ一打ニ付十仙ヲ加フ

(四) 百合根千個ニ付六弗

(五) dried beans 一封度ニ付二仙五厘

(六) dried peas 一封度ニ付一仙四分ノ三

(七) broad silks of jacquard figured 従価六割五分

(八) A hollow or filled imitation pearl beans 従価六割(変更ナシ)

B imitation solid pearl beans 一吋五仙以下ノ価格ノモノ一吋ニ付二仙及従価二割

C 一吋五仙以上ノモノ従価六割

D iridescent imitation solid pearl beans 一吋

十仙以下ノ価格ノモノハ一吋ニ付四仙及従価四

割一吋十仙以上ノモノハ一吋ニ付十仙及従価六

割

(九) 麦藁帽子原料

ノ意向ヲ示セリ斯ノ如ク外国ノ対抗運動ニ関スル情報ハ自然米国政府側及外国ト利害關係者ノ考慮ヲ促シ何等カノ形ニ於テ関税引上緩和上有効ナリト思料セラルル処当地本邦当業者ノ運動ハ之ヲ怒スヘキモ本邦ニ於ケル商業會議所ノ如キ有力關係当業者団体ノ関税引上緩和方ニ対スル希望乃至反対等ハ米国側ノ感情ヲ害セサル程度ニ於テ此ノ際新聞情報等ヲ利用シ可然当地ニ伝ヘラルル様馴致スル事得策ナルヤニ思考セラル

在米大使ニ暗送セリ

206 昭和4年5月7日 在米国出淵大使より
田中外務大臣宛(電報)

関税法改正案の下院提出

ワシントン 5月7日後発
本省 5月9日前着

第一四六号(至急)

下院歳入委員会共和党委員ニ於テ作成シタル関税法改正法案ハ五月七日下院ニ提出セラル

本邦關係主要品左ノ通

A bleached dyed colored or stained 従価二割五分

B 然ラサルモノ従価一割五分(変更ナシ)

(十) 麦藁帽子等

A not blocked or trimmed and not bleached dyed colored or stained 従価二割五分

B not blocked or trimmed but if bleached dyed colored or stained 一打二十五仙及従価二

割五分

C blocked or trimmed 一打四弗及従価五割

D if sewed (whether or not blocked rimmed bleached dyed colored or stained) 一打三弗以下ノ価格ノ所謂 harvest hats 従価二割五分

(十一) 齒刷子及化粧用刷子

A 「セルロイド」製 handles 及 backs 一個一仙及従価五割

B 裝飾付従価六割其ノ他ノモノ従価五割

(十二) 其ノ他ノ刷子及 hair pencils in quills 従価五割

(十三) 「セルロイド」製人形及玩具中

- A movableノモノ一個一仙及従価六割
 - B 然ラサルモノ一個一仙及従価五割
 - C 其ノ部分品一個一仙及従価五割
- (四) artificial flowers 従価九割

- 第一 raw silk, fish oil, rape seed oil, crab meats, orange, floor coverings, silk wearing apparel, undressed mink, cod and cod-liver oil, tea, natural crude camphor, refined camphor 等ハ従来通り
 - 第三、伸縮条項ニハ大ナル変化ナシ
 - 第四、評価基礎ニ変更ナシ
 - 但シ、「ユニナイテッド・ステーツ・バリュー」ノ適用範囲ヲ拡大セリ
 - 第五、右法律公布ト共ニ効力ヲ発生ス
- 本電紐育商務官ニ転電セリ

207 昭和4年5月8日

在ニュー・ヨーク原商務書記官より
田中外務大臣宛(電報)

米國議會下院提案の関税引上げが日本商品に
およぼす影響

化学製品ニ加奈陀ハ木材及乳製品ニ亞爾然丁ハ肉類及穀物ニ又玖馬ハ砂糖ニ何レモ相当ノ重税ヲ課セラレ居ルノミナラス本法案ニ付テハ両政党上下両院及関係当業者間ニ於テモ種々ノ論議アルヲ以テ之カ最後ノ決定迄ニハ尚相当ノ時日ヲ要シ且幾多ノ変化ヲ予期セラルルヲ以テ本邦側トシテハ関係諸品カ多ク本邦特産品タルト共ニ米國中流以下ノ消費階級ニ安価ナル日用品ヲ供給スルモノナル事情ヲ明カニシ相互貿易大局ノ利益及本邦産業ノ立場ヲ主張シ今後一層有効ナル緩和ヲ採ル要アリト存セラル

米へ暗送セリ

208 昭和4年5月16日

在ニュー・ヨーク内山総領事代理より
田中外務大臣宛(電報)

関税引上げが日米経済関係におよぼす影響に
ついでに講演

第三三三号

ニュー・ヨーク 5月16日前発
本 省 5月17日前着

米國関税改正問題ニ関シテハ商務官発電報第三五号ノ通各

ニュー・ヨーク 5月8日後発
本 省 5月9日後着

第三九号

七日下院提出ノ関税改正法案ヲ以テ税率引上ケテ提起セラレタル本邦関係商品ハ二十余种ニ及ヒ現行率ニ対スル増加割合ハ雜貨類一割一分乃至二割五分豆類四割三分乃至七割五分大豆油十割百合根二十割ナリ推算ニ依レハ安価裝飾付キ陶磁器中ニハ二十三割八分ニ及フモノアリ且關係本邦商品ノ一九二七年輸入額約一千五百万弗ニシテ生糸、茶ヲ除ク同年ノ本邦商品米國輸入額六千万弗ニ対シ二割五分ニ当レリ右下院案ハ幸ニシテ絹物、蟹缶詰、菜種油、魚油等ノ税率引上ケテ提起セサルモ右引上ケ提起ノ多数商品ハ本邦中小工業ノ製産ニ懸リ現状ニ於テモ其ノ輸出ノ大勢挽回ニ多大ノ努力ヲ払ヘルニ或ルモノハ従価九割又陶器ノ如キニ対シテハ従価税ノ外一打ニ付数仙ノ課税ニ依リ二十割以上ノ禁止的課税ニ及フモノアリテ其ノ我貿易産業ニ及ホス影響多大ナルモノアリ之ヲ他外國トノ關係ニ付見ルニ英國ハ高級綿製品及毛織物ニ仏國ハ絹天鵝絨ニ瑞西ハ絹「リボン」又時計ニ白耳義ハ硝子及「セメント」ニ独逸ハ雜貨及

國ノ對抗運動ニ鑑ミ既ニ議案提出セラレタル以上当方ニ於テモ余リ大袈裟ニナラサル程度ニテ一応我立場ヲ闡明シ置クノ必要アリト認メ其ノ機会ヲ狙ヒ居リタル処恰モ当地「ギハニス」俱樂部(「ロータリー」俱樂部ト全然同一組織ニテ相当有力ノモノナリ)ヨリ日本ノ産業ニ関シ本官ノ講演ヲ求メ来レルニ付日米經濟關係ノ重要密接ナル点ヲ篤ト説明スルト共ニ兩國ノ貿易ハ相関的ニシテ米國側ノ日本品ニ対スル需要減少ハ直ニ日本側ノ米國品購買力ヲ減少セシムヘク現ニ下院ニ提出セラレタル陶器其ノ他ノ雜貨ニ対スル関税引上ケノ如キモ之カ実施ヲ見ルニ至ラハ本邦多数關係業者ノ購買力ヲ減殺スルノ結果ヲ来スヘシトノ意味ヲモ含メテ昨十五日演説セル処十六日発行ノ当地「タイムズ」、「トリブューン」等ノ各紙ハ特ニ右ノ点ニ関スル本官演説要旨ヲ掲載セリ

在米大使へ暗送セリ

209 昭和4年5月21日

田中外務大臣より
在米國出淵大使宛(電報)

米國議會下院関税法改正案の詳細報告方訓令

貴電第一四六号第三及第四二関シ

評価基礎ハ変更ナシトスルモ合衆国価格ノ適用範囲ノ拡大ハ本邦ニ相当大ナル影響アリト思料セラルルヲ以テ提案ノ内容電報アリタク尚伸縮条項ハ従来米国産品ト競争国産品トノ生産費ノ差異調節ヲ目的トセルニ対シ今回ハ外国ノ競争条件ヲ平均セシムル趣旨ニ改正セントスルモノナルヤニ伝ヘラルル処若シ然リトセハ関税ヲ競争国産品ノ価格ト米国産品ノ価格トノ差異迄引上クル必要アルヘク斯クテハ合衆国価格又ハ米国販売価格ノ採用ト略同様ノ結果ヲ招来シ今後対米輸出ヲ益々困難ナラシムル惧モアレハ此点併セテ詳細電報アリタシ
在紐育商務書記官ニ転電アレ

210 昭和4年5月22日 在仏国安達(峰一郎)大使より
田中外務大臣宛

米関税改正のヨーロッパにおよぼす影響について

団トスル経済連合ヲ画スルヲ以テ急務ト為スノ思想著シク擡頭スルニ至レリ左ニ最近欧州諸国ニ醸生シツツアル這般ノ気運ヲ概説シ御参考迄ニ報告ス

欧州大陸ノ諸国ヲ一団トスル関税同盟組織ノ思想ハ大戦前既ニ欧州大陸ニ於ケル先覚者ニ依リ数々唱道セラルル所ナリシモ英、独、澳、仏等ノ諸強国間ニ於ケル経済的競争熾烈ナリシニ加ヘ米国の経済的威圧ヲ受クルコト鮮カリシヲ以テ實際上ノ問題トシテハ為政者乃至實際家ノ注意ヲ惹クコト多カラサリシ次第ナリ
欧州大戦後ニ於テハ各国孰レモ戦後ノ復旧ニ専念シ斯ノ如キ問題ヲ顧念スルノ暇ナク専ラ自国内ノ産業保護ニ没頭シ来レリ

然ニ輓近ニ於ケル米国の経済的活躍ハ欧州諸国ニ対シ大脅威ヲ感セシメ戦後復旧事業ノ漸次緒ニ着クニ從ヒ米国の経済力ノ専横ニ拮抗スル為欧州大陸諸国当業者間ノ協定例ヘハ鉄、鋼、「レーール」、加里、亜鉛、化学製品、「アルミニウム」、人造絹糸等ニ関スル国際協定ノ成立ヲ見ルニ至リ更ニ最近ニ及ヒテハ米国ニ於ケル関税引上案ニ対シ欧州諸国ニ於テハ各其ノ対米輸出貿易ヲ著シク阻害スルモノト

昭和四年五月二十二日

在 仏

特命全權大使 安達 峰一郎(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

米関税引上案ト欧州関税同盟ノ気運ニ関スル

情報

曩ニ欧州諸国ヲ巡遊シ詳ニ其ノ経済状況ヲ視察シタル一米國经济学家ハ戦後欧州諸国ノ復旧遅々トシテ進捗セサル所以ノモノハ多数ノ小国カ経済的障壁ヲ高クシ相互通商ノ円満ナル発達ヲ阻害シツツアルニ起因ス米国ニ於テ若シ欧州諸国間ニ於ケルカ如ク各州間相互ニ均シク経済的境界ヲ築キタリセハ今日ノ如キ発達ヲ遂ケサリシナルヘシ欧州大陸ニ於ケル今日ノ急務ハ経済連合ヲ一日モ速ニ実現スルニアルヘシト声明シタリト云フ

然ニ輓近米國経済力ノ異常ナル活躍ハ欧州諸国ニ対スル一大脅威ヲ齎ラシ殊ニ最近米國政府ノ議會ニ提出シタル関税引上案ハ欧州諸国ノ対米輸出貿易ヲ威嚇スルモノト為シ結局今後米國ノ経済的専横ニ拮抗セムカ為ニハ欧州諸国ヲ一

シテ夫々簡別のニ米國政府ノ注意ヲ喚起シタルモ其ノ効果ノ見ルヘキモノナク遂ニ右引上案カ格別ノ修正ヲ見ルコトナク議會ニ提出セラレタルニ顧ミ今後米國ノ経済的侵略及其ノ極端ナル産業保護政策ニ対抗セムカ為ニハ現時ノ如ク欧州大陸カ多数ノ小経済単位ニ區別セラレ相喰ムノ状況ヲ放棄シ速ニ此等諸国ヲ一団トスル経済同盟ヲ組織スルコトヲ必要トストノ論最近著シク擡頭スルニ至レリ国家間ノ経済同盟ハ一朝一夕ニ之カ実現ヲ期シ得サルモノニシテ単ニ当事国間ノ協調其ノモノニモ諸種ノ障碍アルノミナラス第三国ノ妨害鮮カラサルモノアリ仏國革命直後ニ於テ仏國ト此辺ノ諸小国トノ経済同盟論起リタルコトアルモ以上ノ障害ニ依リ実現ニ至ラス欧州大陸ニ於テハ漸ク独逸関税同盟ノ実現ヲ見タルノミ最近ニ於テハ白耳義ト「ルクサンブール」トノ同盟ノ成立ヲ見タルモ之レサヘ第三国側ヨリ鮮カラサル異議アリタリ故ニ苟モ欧州大陸関税同盟ト云フカ如キハ一朝ニシテ実現シ得サルモノトハ従来世上一般ノ信念ナリトス
然ニ此等ノ障害ハ相匹敵スル経済単位多数存在シ常ニ競争ヲ継続セル時ニ有ス各経済単位間ノ産業状態ニシテ有無相

通シ協調ノ可能性アル場合有力ナル第三国ノ出現ニ依リ此等共同ノ利益カ脅威ヲ感スルトキ茲ニ經濟同盟ノ成立ノ氣運ヲ促進スルコト敢テ異トスルニ足ラス欧州現時ノ状態ハ米國ノ經濟的脅威ニ依リ正ニ這般ノ狀況ニアルモノト云ヒ得ヘシ

試ニニ仏獨間ノ關係ヲ見ルニ仏ノ製鉄業ハ獨ヨリノ鉄鉱ニ依リ獨ノ製鉄業ハ仏ノ石炭ニヨリ其ノ全ヲ期シ得ル処ニシテ染料、「アルミニウム」、加里、既ニ協定ヲ結ヒ居レリ織維工業ニ関シテモ兩國自ラ特徴アリ必スシモ兩國間ノ經濟的連合不可能ナラス現ニ“Comité d'information et des documentations économiques franco-allemand”ハ兩國ノ協調ニ付常ニ努力ヲ傾注シツツアリ之ニ白耳義、ルクサンブル同盟ヲ参加セシムルコト産業上決シテ難キニアラス斯クセハ西部歐羅巴ニ於ケル主ナル産業國間ノ同盟ハ茲ニ實現ヲ見得ル次第ナリ

爾余ノ小國即チ波蘭、旧露國ノ一部分ナリシ波羅の諸國、瑞典、挪威ノ如キハ其ノ經濟力及資源ヨリシテ西部關稅同盟ニ参加スルコト必スシモ異議アラサルヘク又之カ圈外ニ立ツ場合ト雖敢テ歐洲關稅同盟ノ存立ニ大ナル支障ヲ与ヘ

見ル次第ナルカ世人ノ懸念スル処ハ果シテ小協商國側カ獨ト協調シ得ルヤ否ヤニアリ

然ニ小協商國カ經濟的連合ヲ實現スル場合ト雖之ヲ以テ獨逸ノ産業ニ對抗セムカ為ノ武器ナリセハ小協商國側ハ獨逸ノ介入スル一団ニ参加ヲ甘受スルカ如キハ期待シ得サルカ故ニ世人ハ今次ノ小協商國側ノ「ベルグラード」會議カ獨、塊等ヲ排除セムトスル經濟連合ヲ画セルモノニアラスシテ米國ノ脅威ニ備フヘキ歐洲大陸ノ經濟的防備ノ完成ニ端緒ヲ開クヘキモノタラムコトヲ切望セリ

更ニ爾余ノ諸國ニ至リテハ右大勢ノ向フ処ニ從ヒ如何様ニモナルヘク英國ニ至リテハ輓近保護ノ色彩濃厚トナリタリト雖歐洲關稅同盟ノ参加ハ最モ喜フ処ナルヘシ要スルニ歐洲關稅同盟ノ成否ハ仏獨ノ協調ト之レト小協商國側トノ利益調和ノ二点ニテ之カ妥協ノ途発見セラルルニ於テハ或ハ世人ノ一笑ニ付シタル本問題モ意外ニ速ニ展開セラルルコトナキヲ保シ難シ

211 昭和4年5月23日

在米國出淵大使より
田中外務大臣宛(電報)

サルヘシ殘ルハ小協商國側ト伊西兩國トナル次第ナルカ西國ニ於テハ仏獨ト競争ノ地位ニ立ツヘキ工業ナク仏國ニ對スル原料供給國ナルヲ以テ之カ稅率無稅トナリ又需要増加スヘキ保障サヘアラハ其ノ對價トシテ仏ヨリノ製品ニ對シ好遇ヲ付与スルコト必スシモ期待シ得ラレサルニアラス伊ニアリテハ西ト事情ヲ異ニシ仏獨ト相拮抗スルノ産業ヲ有スルヲ以テ障害ハ寧ろ茲ニ存スト觀察セラル然レトモ伊ニ對シテハ經濟上ノ利益以外渴望セル他ノ問題例ヘハ阿弗利加ニ於ケル殖民地問題等ニ付相當ノ保障ヲ受クルニ於テハ同盟ニ参加スルコト必スシモ躊躇セサルヘシ

次ニ小協商國ナルカ本年五月初頭ヨリ同月二十二日迄「ベルグラード」市ニ「チエツコ」「ルーマニア」「ユーゴスラヴ」三國ノ外相會議開催セラレタルカ同會議ニ於テハ此等三國間ノ政治問題ニ付討議セル外三國間ノ經濟問題ヲモ併セ攻究シ更ニ本年九月右經濟問題ニ付研究ヲ繼クヘキ旨ノ「コムミュニケ」發表セラレタリ世人ハ右會議ヲ目シテ小協商國間ノ經濟的連合實現ノ一階梯ナラムコトヲ切望シツツアリ幸ニシテ之カ實現ヲ見タル曉更ニ西歐諸國トノ妥協ヲ遂ケ得レハ茲ニ歐洲大陸ヲ一丸トスル經濟單位ノ成立ヲ

米國議會下院における關稅改正案討議詳報

ワシントン 5月23日後發
本省 5月24日後着

第一七八号

貴電第一八五号ニ関シ

下院歳入委員ノ改正法案付屬報告書ニ依レハ

第一、評價 現行法制欠陥ハ(一)外國ニ於ケル生産費ノ調査

困難ナル事(二)多クノ場合現行法規規定ノ米國評價ヲ確認シ

難キ事(三) appraiser カ外國品輸出價格ヲ確認シ得スト決

定シタル場合右決定カ customs court ニ依リ reverse セ

ラルル事等ニシテ是等ノ障害ヲ除去スル為改正法案ハ(イ)

合衆國評價ノ意義ヲ確定シ以テ必要ナレハ實際上如何ナ

ル場合ニモ合衆國評價ヲ決定シ得ル事トセリ即チ若シ現

行規定ニ依ル合衆國評價(四〇二「デー」)ヲ定メ得サ

ル場合ニハ構造又ハ用途ニ於テ「コンパラブル」ナル米

國産品又ハ輸入品ヲ採リテ其ノ品質其ノ他ノ差異ヲ適當

ニ考慮シタル上右商品ノ米國內ニ於ケル卸売價格ヲ規準

トシタル見積價格ニ依ル事トセリ運賃保險其ノ他ノ運搬

費手数料利益諸経費及輸入稅等ヲ控除ス(ロ) appraiser カ

外国品輸出価格ヲ確認シ得ストシタル決定ハ final and conclusive トシ唯 consignee 又ハ其ノ「エージェンツ」

ハ大蔵長官ニ其ノ決定ノ review ヲ請求スル事ヲ得ル事トセリ

以上ノ改正ニ依リ外国ニ於ケル生産費調査ノ協議ヲ避ケ直接輸入業者ニ対シ外国品輸出価格ニ関スル充分ナル証拠ヲ提出スルノ責任ヲ負ハシムル事トセリ

第二、伸縮条項 現行法ノ欠陥ハ(一)生産費ノ調査ニ長日月ヲ要シ又多クノ場合関税委員ハ外国ノ生産費ヲ知ル事不可能ニシテ調節ヲ為ス事ヲ得ス又(二)生産費ノ差異ノミカ正確ニ競争条件ヲ表示スルモノニ非ス從テ生産費ノ差異調節ハ米國ノ産業ニ対シ損害ヲ及ホスヘキ競争ヲ避クルニ充分ナラス

右ノ欠陥ヲ匡正スル為改正案ハ合衆國ノ主要市場ニ於ケル米國産品ト類似又ハ同様「ライク・オア・シミラー」ノ競争輸入品ト外観ノ競争条件ヲ平均セシムル事ヲ趣旨トセリ而シテ競争条件ノ差異ノ確認ニ当リテハ(1)米國産品ノ生産費又右産品ノ米國主要市場ニ於テ普通ノ卸売数量ニ依リ販売セラルル価格及ヒ(2)輸入品ノ生産費又

に對する在米商社員からの説明

ニュー・ヨーク 5月31日後發
本 省 6月1日前着

第四六号

米國関税改正案ハ在米大使發電報ノ通原案ニ多少ノ修正ヲ加ヘ愈下院ヲ通過シタルカ本邦關係商品ニ付テハ薄荷腦、土器、機械拭用襪、絹製着物等ニ修正引上ヲ見タレトモ土器及陶磁器中玩具ハ從價七割トナリ從量稅ヲ免レタル結果安物玩具茶器ノ如キハ相当緩和セラレタルコトトナリ其ノ他原案通過ヲ見タル大豆油及豆類、陶磁器、「セルロイド」製品、「ラグラグ」、百合根、「クラム」、椎茸、人造真珠、帽子用真田等モ實際取引事情ヨリ觀察スルニ例ヘハ油滓豆類ノ大部分ハ其ノ儘或ハ缶詰トナリ再輸出ニ充テラレ大豆油モ「コンンプログダツ」会社ノ製品トシテ再輸出セラレ陶磁器ハ十仙均一店等ニ於テ販売セラルル安物ニハ影響大ナルカ其ノ他ニハ余リ過酷トナラス「ラグラグ」モ原則的ニ外国価格ニ依リ評価ヲ適用セラルル結果實際上ニハ却テ引下ナルヘク百合根ノ如キモ從價一割二三分ニ當リ本邦品ハ輸入禁止ヲ免レ居ル際多少ノ引上ハ已ムヲ得ス等

invoice price or value 又 import cost 及(1)以上ニ含マレサル容器包装運搬等ヲ含ム米國産品及輸入品ノ他ノ費用及(2)外國生産者カ其ノ國ノ政府個人組合協定会社ヨリ受クル利益ヲ考慮スル事トシ右ニ依リ大統領ハ(一)右競争条件ノ差異ヲ平均セシムル為ニ classification ノ変更又ハ既定稅率ノ増減(五割ノ範圍内)ヲ命シ(二)若シ以上ノ方法ニ依リ其ノ差異ヲ平均セシメ得サル時ハ米國産品ノ米國販売價格ヲ規準トスル事ヲ命ス

尚競争条件ノ差異ノ確認ニ當リ考慮スヘキ条項ニ関シ歳入委員ハ右ハ単ニ大体ノ方針ヲ示シタルニ過キスシテ例ヘハ米國産品ノ生産費ハ容易ニ調査シ得ヘキモ外國輸入品ノ場合ニハ基点トシテ landed or import cost ヲ用フルカ或ハ内外國品双方ノ卸売價格ヲ用フル事ヲ奨励シ居レリ

原商務官ニ郵送セリ

212 昭和4年5月31日

在ニュー・ヨーク原商務書記官より
田中外務大臣宛(電報)

関税法改正案の下院通過並びに上院財政委員

ノ事情アリ結局下院案ハ大局ヨリ見レハ本邦商品ニ及ス影響比較的大ナラス当地ニ於ケル關係本邦商モ稍愁眉ヲ開キ居レリ乍併右下院案ハ尚各方面ノ不満足ニ了リタルモノノ如ク之等ハ今後上院ニ於ケル改正ヲ目的トシ財政委員ニ對シ激烈ナル運動ヲ開始シツツアリテ今迄引上ヲ免レタル本邦商品モ上院案ニ於テハ或ハ引上ラルル虞アリ又既ニ引上ヲ見タル本邦商品中ニハ金額ハ小ナリトスルモ尚禁止の稅率ヲ課セラレタルモノモアリ何レニスルモ輸出雜貨商品トシテ本邦ニ取リテハ重要ニシテ本邦各地ニ亘ル産業ニ影響スル所大ナルモノアルニ付尚更ニ往電第三〇号報告同様当地本邦輸入業者代表田島ヲシテ上院財政委員ニ面接セシメ個々ノ商品ニ付説明ノ関稅緩和方懇談セシムルコトトシ幸ニ財政委員(民主黨員)「トーマス」ヨリ前電報告ノ通當初ヨリ関稅改正ノ國際貿易上ノ影響ニ付本邦當業者側ノ意見ヲ求メ來レル關係アルニ付最近ノ機会ニ於テ田島ヲシテ同氏ニ面會セシメ同時ニ財政委員(共和黨員)「カイエス」及「エツヂ」等ニモ同様ノ接觸ヲナサシムル様目下準備中ナリ

米ニ転電セリ

編注 本件改正案は二八日、二六四対一四七により下院を通過した旨報告あり。(五月三〇日着、在米国出淵大使より田中外務大臣宛電報第一八三三号)

213 昭和4年6月8日 在仏国栗山(茂)臨時代理大使より
田中外務大臣宛(電報)

米関税法改正のフランスへの影響について

パリ 6月8日後発
本省 6月9日前着

第一八五号

仏国全国商業会議所会頭六月四日巴里ニ会合五月三十日米
国下院ヲ通過シタル関税法改正法案ニ関シ左ノ決議ヲナシタル趣ナリ

一、仏国政府カ遅滞ナク米国ニ対シ必要トスル一切ノ関税
上ノ措置ヲトランコト

二、今般米国下院ヲ通過シタル関税法案ニ依ル禁止的障壁
ノ結果經濟上著シク脅威ヲ受クル欧州諸国ノ政府カ必要
ナル共同ノ対応策ヲトル為速ニ協議センコトヲ望ム

右ニ関連シ八日商務省係官ノ意見ヲ質シタル処仏国側ハ右

ヲ遂ケツツアリタルカ右ニ関シ成案ヲ得タル趣ナルヲ以テ
十二日紐育ヨリ首藤及田島ヲ招致シ打合セタル処十二日ヨ
リ引続キ開催セラルル上院財政委員ノ聴取会ニ於テハ下院
歳入委員会聴取会ニ於ケルト同様本邦関係商人ハ夫々米國
人ノ当該団体又ハ個人ヲ通シ自己関係ノ商品ニ関シ隨時詳
細ニ亘ル陳述ヲ為スノ手筈整ヒ居リ此ノ際当方トシテハ右
トハ別ニ一般ニ日米ノ經濟關係下院カ我國多數小商工業者
ニ甚大ナル打撃ヲ与フルト共ニ米國側ニトリテモ其ノ産業
ヲ保護スル結果トナラスシテ却テ多數下層階級ノ負担ヲ大
ナラシムル所以等其ノ他彼我貿易上ニ及ホス影響之ニ対ス
ル伸縮条項ニ関スル事項更ニ個々ノ商品ニ対スル影響等ノ
説明書ヲ作成シ田島ヲシテ國務次官補「ジョンソン」ヲ始
メ適當ナル上院委員ニ面接右説明書ニ基キ敷衍説明セシメ
出来得ル限り下院案ノ緩和方ニ尽力セシムルコトトシタリ
尚貴電第二二二号中伸縮条項(下院案第三三六条dノ四)
ニ関シテハ既ニ現行法ニモ規定セラレアリ此ノ際特ニ之ヲ
取立テテ論議スルハ不得策ナリト思考シタルニ付之ニ触レ
サル事トシタリ

三 通商問題

法案ノ下院ニ提出セラレタル際在米大使ヨリ仏側ノ關係ア
ル品目ニ関シ米國当局ノ注意ヲ喚起シタル次第アルモ其ノ
結果ニ付テハ未タ報道ニ接セス又一九二七年以來米國品ノ
多數ニ対シ最低稅率ヲ与へ居レルニ付之ヲ廢止スレハ一般
稅率ニ復歸スルヲ以テ報復ヲナシ得ル次第ナルカ米國トハ
戰時債務ノ問題モアリ簡單ニ措置シ得サル次第ナルヲ以テ
政府ニ於テハ慎重對策ヲ攻究中ナリト語レリ委細郵報
英、米、独、伊、白へ暗送セリ

214 昭和4年6月14日 在米國出淵大使より
田中外務大臣宛(電報)

米國下院通過の関税法改正案の日本商品におよ
ぼす影響につき在米商社員より國務次官補に

説明

ワシントン 6月14日後発
本省 6月15日前着

第二〇七号

関税法案ノ下院通過後同案ノ本邦關係商品ニ及ホス影響及
其ノ對策ニ付テハ在紐育商務官ニ於テ同地在留邦商ト熟議

215 昭和4年6月15日 在米國出淵大使より
田中外務大臣宛(電報)

民主・共和兩党財政委員に対する在米商社員を
通じての事情説明

ワシントン 6月15日後発
本省 6月16日前着

第二〇九号

往電第二〇七号ニ関シ

十三日田島ハ「ジョンソン」ニ面会説明書ニ基キ一時間ニ
亘リ詳細事情ヲ述ヘタル処同氏ハ適當ナル方面ニ轉達スヘ
キ旨答ヘタル趣ナルカ右ハ同省ニ於テモ最近各國ヨリ此ノ
種陳情多キカ為兩院其ノ他關係方面ニ夫々轉達シツツアル
モノト思考セラレ

次テ田島ハ民主黨財政委員「ブース」ニ面接シタルカ「ブ
ース」ハ特ニ日米經濟關係ニ付傾聴シ七月中旬聴取会終了
後更ニ詳シク兩國經濟問題及関税法改正ノ貿易ニ及ホス影響
等談話シ度キ旨ヲ述ヘタル由ナリ
十四日田島ハ共和黨財政委員「カイエス」ニ面会前同様ノ
説明ヲ為シタルカ之亦聴取会終了後再会スルコトトセリ

以上ニテ上院財政委員方面ニ対スル今回ノ事情説明方ハ兎ニ角一先ツ打切ルコトトシ今後ハ米人ヲ通シテナシツツアル本邦当業者ノ聴取会ニ於ケル陳情ノ成行ヲ注意シツツ必要ニ応シ田島ヲシテ更ニ財政委員ニ接触セシムル所存ナリ
商務官ニ暗送セリ

216 昭和4年6月20日

在米国出淵大使より
田中外務大臣宛(電報)

関税改正案の上院での審議予定並びに下院案
修正要領

ワシントン 発
本 省 6月20日後着

第二一七号

(一)米国議会ハ関税改正ヲ除キ往電第二二二号農業法案等ノ研究問題ノ審議ヲ了シタルヲ以テ両院共同決議ヲ以テ上院ハ六月十九日ヨリ八月十九日迄下院ハ同日ヨリ九月二十三日迄休会セリ尚関税法案ニ付テハ上院休会中同院財政委員会ニ於テ七月中旬迄聴取会ヲ開キ上院再開日タル八月十九日迄ニ修正案ノ作製ヲ終リ上院ハ下院再開日タ

217 昭和4年7月9日

在ニュー・ヨーク首藤商務書記官より
幣原外務大臣宛(電報)

関税改正案の上院における審議の模様

ニュー・ヨーク 7月9日前発
本 省 7月10日前着

第六一号

上院関税聴取会ノ情勢ニ関シテハ在米大使発電報第二四三号ニ依リ御承知ノ通ナル処右聴取会ニ於テ本邦関係主要商品ニ関スル当業者陳述ノ状況ヲ見ルニ絹織物ニ付テハ「チニー」カ下院ニ於ケルト同様 U.S. value ノ採用或ハ従量税ノ併用ヲ主張シ陶磁器ニ付テハ米国製陶組合代表者ハ裝飾付陶器ニ対シ従量税一打十五仙同磁器ニハ同二十五仙ヲ各現行従価税ニ付加課税方主張シタルニ対シ本邦商側ハ米人代表ヲ以テ夫々之カ反駁ニ努ムル処アリ樟腦ニ付テハ「セルロイド」製造組合代表カ合成樟腦六仙据置方陳述セリ然ルニ本邦側陳述者カ其ノ際受ケタル印象ハ何レモ必スシモ樂觀ヲ許ササル情勢ニアリタリト云フ「クラム」缶詰ニ付テハ邦品ハ米国品ト別種ニシテ一般 shell fish カ無税ナルニ之ニノミ課税スルハ差別待遇ナル旨ヲ極力主張シタル外

ル九月二十三日迄ニ同案ノ審議ヲ終リ之ヲ下院ニ回付スル筈ナル処下院ニ於テハ右院ノ審議相当遷延スヘキヲ見越シ上院審議未了ノ場合ニハ更ニ三日間宛下院限りニテ十月十四日迄休会シ得ヘキコトニ議員間ノ諒解成立シタル趣ナリ

(二)関税案今後ノ推移ヲ案スルニ下院ハ往電第一九六号ノ(一)ノ通一般ニ頗ル不評判ナルト共ニ上院ニ於テハ財政委員會ニ於ケル関税審議ヲ農産物及之ニ直接関係ノ商品ニ限ラントスル決議案「ボラー」ニ依リ提出セラレ十七日僅ニ一票ノ差ヲ以テ否決セララル等下院案ニ対シ根本的修正ヲ加ヘントスル空氣相当濃厚ナルカ如ク其ノ他往電第二二二号 Export Debentures 案ヲ関税法案ニ付加セントスル法案「ノーリス」ニ依リ提出セラレ居リ上院再開後之カ審議ノ為更ニ紛糾ヲ免カレサルヘク從テ来ル十二月定期議會開会前ニ関税法ノ成立ヲ疑フモノアリ
(三)移民法 National Origin 条項廃止又ハ実施延期ニ関スル法案ハ遂ニ通過ヲ見ルニ至ラス同条項ハ七月一日ヨリ実施セララルコト確実トナレリ
本電(一)及(二)商務官ニ郵送セリ

蟹缶詰、薄荷、「セルロイド」製品、模造真珠、製帽用真田等何レモ夫々関係ノ向ニ於テ我方ノ立場ヲ陳述シタリ之ヲ要スルニ目下ノ形勢ヨリ見ルニ上院ハ下院案ニ対スル内外ノ反対論議ニ相当ノ考慮ヲ加ヘ下院案全般ニ対シ少クトモヨリ以上広汎且高率ナル修正ヲ加フル事ハ為ササルヘク砂糖、建築材料、皮革靴等消費者側ヨリ反対議論多キ重要品ニ於テハ殊ニ然ルヘシト観測スル向多キモ本邦関係商品ハ是等ニ比シ米国ニ取り割合重要ナラサルト引上ケ反対陳述者ノ多クカ輸入業者ナル関係上委員側ヨリ余リ重要視セラレサル立場ニモアリ上院カ如何ニ是等ヲ取扱フヘキヤハ目下推定シ難キ事情ニアルヲ以テ聴取会終了後財政委員ノ手ニ於テ法案修正ヲ行フヘキヲ以テ大切ノ機会ニ一方田島ヲシテ適當ノ委員ニ面接セシメ出来得ル限り緩和方ヲ計ルト共ニ当地関係邦商ヲシテ夫々更ニ緩和方ニ努ムル様手筈ヲ整ヘ居レリ
在米大使へ暗送セリ

218 昭和4年7月20日

在米出淵大使より
幣原外務大臣宛(電報)

下院改正案の問題点につき在米商社員を通じて
國務次官補、上院財政委員へ説明

第二六七号

ワシントン 7月20日後発
本省 7月21日後着

往電第二〇九号及貴大臣宛商務書記官発電報第六一号ニ関シ

十八日國務長官ニ面接ノ際関稅改正問題ニ言及シ本件ニ関シテハ帝國政府ニ於テ何等抗議等ヲスヘキ筋合ニハ非サルモ下院案ノ通上院ヲ通過スルニ於テハ日本ノ対米貿易ニ及ホスヘキ影響ハ相当大ナルヘキヲ憂慮シツツアル次第ナルカ詳細ハ國務次官補「ジョンソン」ニモ話シ置キタルコトアルヲ以テ長官ニ於テモ考慮ヲ煩ハシ度キ旨申述ヘ置キタリ次テ「ジョンソン」ニ面会ノ際本件ニ付テハ過日貴官ノ御注意ヲ求メ置キタルカ特ニ今回ハ在紐育本邦商社ノ陳情ニ口添ヘスル意味ニ於テ近ク田島ヨリ提出ノ筈ナル「モランダム」ハ大体ニ於テ本使ノ「アプルーバル」スル処ナ

第二八〇号

往電第二六七号ニ関シ

過日田島ヲシテ國務省「ジョンソン」及「ワトソン」ニ対シ関稅改正ノ我方ニ及ホス影響等説明セシメ置キタルカ上院修正法案起草ニ際シ財政委員ニ我方希望ヲ徹底セシメ置クノ要アリト認メ更二十四日田島ヲ招致シ共和党委員中ノ有力者タル「サケット」、「リード」及民主党委員「トウマス」ニ面会セシメタルカ其ノ際田島ハ「メモランダム」ヲ提出スル外各委員ノ所属分科会關係日本商品ニ付夫々詳細ノ説明ヲ加ヘ我方意向ハ大体此等委員ヲ通シ委員会ニ諒解セシメタリト認メラルル趣ナルヲ以テ財政委員会ニ対スル田島ノ陳情ハ一応之ニテ打切りトシ上院案起草ノ結果ヲ見テ更ニ考慮スルコトトセリ

紐育商務官ニ暗送セリ

220 昭和4年8月27日

在ニュー・ヨーク首藤商務書記官より
幣原外務大臣宛(電報)

関稅法改正案に関する上院の修正案が日本商品
におよぼす影響について

ルヲ以テ上院委員等然ルヘキ方面ニ轉達方ヲ依頼シ置キタルカ一方紐育ヨリ首藤、田島ヲ招致シ十九日田島ヲシテ「ジョンソン」ニ面会セシメタル処「ジョンソン」ハ右「メモランダム」ヲ上院財政委員会下院歳入委員会関稅委員会等ニ回付スヘキ旨申居タル趣ナリ更ニ田島ヲシテ上院財政委員ニシテ共和党内總理ノ地位ニアル「ワトソン」ニ面会セシメ詳細ニ亘リ説明セシメ置キタリ尚上院関稅聴取委員会ハ愈十八日終了シ二十二日ヨリ共和党委員ノ手ニ於テ修正案起草ニ取掛ル趣ナルカ委員長「スムート」及「ワトソン」等ハ八月十九日上院再開迄ニ充分同案ノ起草ヲ了シ得ヘシト声明シ居レリ

紐育ニ暗送セリ

219 昭和4年7月25日

在米出淵大使より
幣原外務大臣宛(電報)

上院修正案改正要領の日本におよぼす影響に
つき上院財政委員会有力者に説明

ワシントン 7月25日後発
本省 7月26日前着

米國関稅改正案ニ関シ上院共和党財政委員作成ノ修正案ニ付關係本邦商品ノ主ナルモノヲ見ルニ(一)新ニ引上ケラレタルモノノ絹織物及寒天(二)下院案ニ比シ引上ケラレタルモノノ椎茸、「ヒット・アンド・ミス」、「Cotton wiping rag」(三)下院案ヨリ緩和セラレタルモノノ陶磁器外五種(四)現行率ニ引戻サレタルモノノ薄荷外四種(五)新ニ現行率ヨリ引下ケラレタルモノノ菜種油(食用以外ノモノ)及真珠ニシテ(一)ノ如ク更ニ引上ケヲ見タルモノアルハ頗ル遺憾トセラルルカ大体ニ於テ之ヲ見ルニ下院ニ比シ我方ニ有利トナリタルハ本邦側ノ緩和運動相当有効ナリシヤニ觀測セラルル而シテ絹織物ノ五分引上ケニ関シ当地当業者ハ米國製造家側ノ猛烈ナル引上運動アリタルニ拘ラス此ノ程度ニ止マリシハ寧ろ幸ナリトシ又右程度ノ引上ハ實際取引上ノ手加減ニ依リ其ノ影響ヲ軽減シ得ヘシトナシツツアルモ兎ニ角輸入金額大ナルヲ以テ其ノ影響鮮カラサルヘク今後一段ノ緩和運動ヲ試ミル所存ナリ「ヒット・アンド・ミス」ハ現行法ニ於テ米國壳

ニュー・ヨーク 8月27日後発
本省 8月28日前着

第七九号

値ヲ基礎トシテ課税セラルルニ反シ外国価格ヲ基礎トシテ課税セラルルモノト認メラルルニ付引上ケモ實際ニハ猶遙ニ低率ニアリ寒天及椎茸ハ農産品トシテ多大ノ引上ケヲ見タルカ何レモ米國当業者ヨリ對抗運動ニ努メツツアル処本邦側モ之カ後援ノ手配中ナリ陶磁器ニ付テハ一旦従量税ヲ総テ削除スル事トナリタルニ拘ラス米國製造家側ノ激甚ナル運動ニ依リ再ヒ一部ニ之ヲ課スル事トナリタルカ其ノ他蛤缶詰等ニ付テモ猶緩和ノ余地アルヤニ思考セラルル処結局最後ノ関税法案ハ上下両院共同協議会ニ於テ決定セラルルモノト観測セラルルニ付当地当業者ト協議ノ上適當ノ対策ヲ講究中ナリ

米へ暗送セリ

221 昭和5年1月18日

在米國出淵大使より
幣原外務大臣宛(電報)

上院財政委員会における修正案の審議並びに採決結果

ワシントン 1月18日後発
本省 1月19日前着

222 昭和5年1月28日

在米國出淵大使より
幣原外務大臣宛(電報)

上院における関税法改正審議終了前に関係議員への説得方途について

ワシントン 1月28日後発
本省 1月29日前着

第三二二号

往電第二六号ニ関シ

其ノ後上院ノ形勢漸次進捗シ此ノ分ニテハ遠カラズ本會議ノ審議終了セラレ引続キ協議会ニ入ル段取トナルヘシト観測セラレ居ル処往電第四七二号樟脳ヲ始メ蛤缶詰、百合根其ノ他今日迄我方ニ不利益ナル影響アリタル重要商品ニ対スル我方希望ヲ右本會議終了前上院有力者ニ徹底セシメ置クコト極メテ必要ト存シタルヲ以テ

(2) 二十七日首藤及田島ヲ招致シ協議ノ結果此ノ際上院議員ニ直接陳情等ノ手段ヲ採ルヨリモ寧ろ之等議員ニ密接ノ連絡アル向ヲ通シテ注意ヲ喚起シ置ク方四圍ノ事情上一層有効適切ナルヘシト認メタルヲ以テ田島ヲシテ右方法ニ依リ然ルヘク措置セシメ置キタリ

第二六号
客年往電第四三九号ニ関シ

客年末以來持越ノ関税問題ハ去ル一月六日議會休会明ケ後引続キ上院ニテ討議セラレ羊毛及絹織物税率ヲ終ヘ今次税率問題中ノ一大難関タル砂糖税ニ移リ大体消費者側ノ利益ヲ主張セル共和党進歩派及民主党連合ト他方内地産業保護ノ建前ヨリ上院財政委員会修正ノ増税ヲ支持セル共和黨幹部及當業地出身民主黨ノ少数トノ間ニ相当激論アリ其ノ間利害關係者ノ活動アリ少カラス一般ノ注目ヲ引ケル処愈十六日採決ノ結果ハ共和党幹部中分解ヲ生シタル為四八対三八ノ大差ヲ以テ現獨立維持派ノ勝利ニ帰シ右ハ大体ニ於テ共和黨派ノ敗北ト看做サレ十七日紐育「タイムズ」ノ如キハ之ヲ以テ共和黨ノ屈服ナルノミナラス同黨多年ノ保護政策ニ対スル一大打撃ナリト論セリ以テ右増税案二代ルヘキ案トテモ「ホウエル」提出ノ奨励金案モ統テ否決セラレタル処今尚未審議ノ税目ハ既ニ僅少トナリ旁目下ノ形勢ニテハ二月ニハ愈協議会開催ノ段取トナルヘク観測セラレツツアリ

紐育商務官ニ暗送セリ

紐育商務書記官へ暗送

223 昭和5年2月23日

在米國出淵大使より
幣原外務大臣宛(電報)

上院での関税法改正案審議遅延について

ワシントン 2月23日後発
本省 2月24日前着

第六九号

往電第二六号ニ関シ

一、上院本會議ハ二月初メ今次関税法改正案税率全部ニ巨ル個別討議ニ移レル以來(商務官發貴大臣宛電報第一四号)各種修正案続出セラレタルト其ノ間「ヒューズ」任命問題其ノ他論議セラレタル等ニテ容易ニ抄ラス漸ク「スケジュール」第七農産品ノ審議ヲ了ヘタル有様ナルカ本月討議ノ大勢ハ依然トシテ民主及共和党進歩派連合ノ支配下ニアリ為ニ曩ニ下院案其ノ他ニ依リ引上ケラレタル工業品税率中再ヒ引下ケラレタルモノ鮮カラス之ニ反シ農産品税率ハ概シテ引上ケラレタルモノ多シ

二、大統領ハ本件審議遅延ノ実状ニ顧ミテ政府与党幹部ヲ召集シテ関稅審議遅延カ經濟界ノ不安定ヲ招クコト及他ノ重要案件ノ審議ヲ遅レシムルコトアルヲ理由トシテ速ニ之カ終了方督勵シタル趣ナルカ右ハ単ニ反対派ノ批難ヲ買ヘルノミニテ大勢ニ反応ナキカ如ク結局本案ノ協議(会ニ入ルハ三月中旬ナルヘシト)觀測セラル尚本案ノ成否カ今週総選挙ニ影響スヘシトノ懸念アリ政府側トシテモ何ントカ妥協ノ上之カ通過ヲ計ラント腐心シ居ル模様ナル処之カ成否ハ協議会ニ入ラサレハ確タル予測困難ナルヘシト報セラレ

商務官ニ郵送

224 昭和5年3月25日

在米に出淵大使より
幣原外務大臣宛(電報)

上院における関稅法改正審議の経過および上院修正案の通過

第一〇三号

ワシントン 3月25日後発
本省 3月25日後着

ラレタルモ之ヲ上院委員会案ニ比スレハ再ヒ高率トナレルモノアリ又農業品ハ依然トシテ高率ヲ維持シ又ハ新ニ引上ケラレタルモノ多キ模様ナリ

三、尚本案ニ対シ各派ノ批評ヲ見ルニ共和党幹部派ハ本案カ旧連合派ノ支配下ニアリタル当時ハ同案ニ対シ非難ヲ加ヘツツアリシモ前記新提携ニ依ル工業品税率引上アリタル等ノ關係ヨリ右ハ大統領最初ニ声明セル農業品改正税率並ニ一部工業品ノ税率改正ニ限ルヘシトノ趣旨ニ反スル所無キニハ非サルモ大体満足ナルモノト認メ居ルカ如ク農業家代表議員モ大体同様ニシテ民主党及共和進歩派ハ之ニ反シ不満ヲ懷キ居ルカ如ク從テ来週愈協議会ニ(約四、五週間継続ノ見込)入ルモ右両派ノ意見衝突及下院トノ妥協案ノ如何ニ関シ相当議論アルヘク就中下院ノ反対セル農業品輸出税戻シ条項及伸縮条項(客年往電第三五五号及第三八三三号)ハ其ノ論議ノ焦点タルヘシト言ハレ居リ尚本案カ何等カノ妥協案ニテ右協議会ヲ通過シ更ニ両院ノ協賛ヲ經テ大統領ノ採否決定ヲ見ルニ至ルハ早くモ五月ナルヘシト觀測セラレツツアリ

往電第六九号ニ関シ

一、上院関稅討議ハ三月四日上院総委員会(Senate Committee of the Whole)トシテノ審議ヲ終ヘタル後引続キ最後ノ本會議(Senate Proper)ニ入レル処劈頭共和党ヨリ往電第二六号砂糖関稅ニ対スル再修正案提議セラレ之カ採決ノ際從來本件討議中大体指導的立場ヲ示シタル共和進歩派及民主党連合派ヨリ数名ノ分離者出テ之ト(脱)党派トノ提携成リタル為形勢一変シ從來右砂糖税ノ引上ケヲ始メ「セメント」、木材、羊毛等右新連合派(東部工業地及西部農業地ノ利益ヲ代表セルモノノ提携ナリト言ハル)ノ主張スル関稅率ノ引上ケヲ見タルカ其ノ間討議永引ケル等漸ク三月二十二日夜ニ至リ客年九月以來持越シノ本件 Smoot Hawley 関稅改正案ニ対スル上院本會議ノ審議及個別修正ヲ完了シ次テ二十四日右ニ対スル一括採決ヲ問ヒタル処前記旧連合派ヨリ首領反対演說アリタルモ結局同日五三對二一ヲ以テ上院ヲ通過シ直ニ今週中休会ヲ宣セリ

二、右上院通過ノ修正案ヲ下院修正案及上院財政委員会案ト比較スルニ下院案ニ比スレハ工業品税率ハ幾分緩和セ

225 昭和5年5月7日

在米に出淵大使より
幣原外務大臣宛(電報)

米國関稅法改正に対する諸外國並びに米國經濟學者等の反対

ワシントン 5月7日後発
本省 5月8日前着

第一五四号

米國関稅改正法案ハ屢次電報ノ通近々実施セラルヘキ見込ナル処該法案ノ実施ハ一方ニ於テ外國輸入商品ニ相当ノ打撃ヲ与フルト共ニ他方国内消費者ニ多大ノ負担ヲ蒙ラシムルモノナリトシテ之ニ非難ヲ加フルモノ少ナカラス

一、今日迄關係外國側ニテ抗議若クハ苦情ヲ申出タルモノ英国、仏蘭西、瑞西、和蘭、亜爾然丁其ノ他四十國ニ及フト報セラレ居ル処(往電第一五〇号参照)之等外國側ノ苦情等カ之迄必スシモ効果ヲ挙ケサリシ關係上ヨリ其ノ反動トシテ将来之等關係國カ夫々對米報復関稅等ヲ實施スルニ至ラサルヤヲ懸念スル向アリ最近加奈陀ノ報復関稅實施ノ説伝ハルヤ反対党其ノ他ノ諸新聞中
右ハ今次米國関稅法案カ高率ニ過キ國際貿易關係ヲ無視

シタルカ為ニシテ今次「カナダ」ノ例ハ聽テ其ノ他ノ外国ニ於テ見做ハルヘク或ハ欧州諸国ノ対米支払ヲ困難ナラシムル等無用ニ対米反感ヲ唆ル虞アリト論スルモノ現ハレツツアリ

二、五月四日米国経済協会員一千余名（各大学教授其ノ他ノ経済家ヲ含ム）ハ今次法案実施ニ反対ナル旨連名声明書ヲ發シタル趣ナルカ其ノ反対要旨ハ今次法案ハ徒ラニ一部工業ノ保護ニ過キス一般物価ヲ引上ケ消費者タル労働者農民ノ負担ヲ大ナラシムルノミナラス又之ニ依リ輸出貿易乃至海外投資ヲ阻害スルニ至ルヘキカ故ニ本案ハ大統領ニ於テ拒否スヘキモノナリト云フニアリ
右御参考迄

226 昭和5年5月16日

在米国出淵大使より
幣原外務大臣宛（電報）

米関税改正への諸外国からの抗議について

第一六二号

ワシントン 5月16日後発
本 省 5月17日前着

の模様について

ワシントン 5月21日前着
本 省

第一六九号
往電第一五九号ニ関シ

関税法案ハ既報ノ通協議会ニ於ケル意見不一致ノ為上院ニ廻付サレ茲ニ同法案ハ伸縮戻シ税兩条項ヲ中心トシテ上下両院ノ間ニ立悩ミトナリ其ノ間下院ハ今後上院ニ於テ右兩条項ニ付妥協的態度ヲ示ササル限り其ノ他ノ未協定事項ニ付テモ此ノ上上院トノ間ニ協議ノ必要ヲ認メストノ強硬ナル態度ヲ示シ一方若シモ右兩条項カ上院修正案ノ通り通過セハ本法案ハ大統領ニ依リ拒否セラルヘシトノ説モ行ハレ居タルカ去ル十六日上院財政委員長 Smoot 上院ニ対シ「上院委員ヲシテ前記兩条項中ニ付今後下院委員トノ協議ニ当リ自由ニ協議セシムヘシ」トノ趣旨ノ決議案カ上院ニテ否決セラレンカ関税法案ハ将来一層紛糾スヘキヲ予想セラレ居リタル処同決議案ハ十九日協議採決ノ結果僅ニ十二票ノ差（同日民主党側動議ニ依リ兩条項ヲ別々ニ採決スルコトトナリタリ）ニテ辛ウシテ通過セラレタリ右通過ハ

往電第一五四号ニ関シ

一、十四日国務省発表トシテ報道セラレル所ニ依レハ今次米国関税法案ニ対シ之迄抗議其ノ他ノ申入レヲ為シ来レル三十三箇国（此ノ外ニ「バハマ」、「ベルムダ」、「ドミニカ」アリ）ニ達シ此ノ中今月ニ入り尚抗議シ来レルモノ瑞西、仏蘭西、独逸、西班牙、「チエッコ・スロヴァキア」、埃及等ナルカ是等ノ抗議ニ対シ国務省トシテハ米関税制定手続上何等ノ権限無キヲ以テ之ヲ議會側ニ移牒シ居ルノミナリト

二、新関税法案ニ対シ諸外国中対米報復関税ヲ企テントスルモノ漸次外国通信トシテ報道セラレ居リ最近最モ問題トナリ居ルハ「カナダ」新関税ナルカ米国ハ之カ為ニ億弗以上ノ輸出減少ヲ来スヘシト言ハレ其ノ他「アルゼンチン」、「ベルギー」、仏蘭西等同様手段ニ出ツヘシトノ報道アリ

227 昭和5年5月21日

在米国出淵大使より
幣原外務大臣宛（電報）

米国上下両院協議会における関税法改正審議

前記ノ通単ニ上院ヲシテ下院委員トノ間ニ自由協議ヲ認ムト云フニアルノミナルモ右ハ事実上前記兩条項ニ関スル上院従来ノ主張ヲ讓歩シタルモノト看做サレ從テ与党側ノ勝利ナリト観測セラレ居レリ協議会ハ引続キ二十日再開ノ予定ナリ

228 昭和5年5月27日

在米国出淵大使より
幣原外務大臣宛（電報）

米国上下両院協議会による関税法改正案の修正とその後の審議の見通しについて

第一七七号

ワシントン 5月27日前着
本 省

往電第一六九号ニ関シ

其ノ後両院協議会ハ協議ノ結果上院連合派修正案タル戻シ税及伸縮兩条項ヲ予定ノ通削除シ此ノ内伸縮条項ニ付テハ大体現行法ノ如ク大統領ニ税率伸縮権限ヲ付与スル新伸縮条項ヲ挿入シ其ノ他数個ノ未協定事項ヲモ決定ノ上二十四日終了セリ右ニ関シ上院与党派幹部ハ右協議会報告書ハ二

十七日ヨリ先ツ上院ニテ採決方討議ヲ再開セラルヘキ処反
 对党ヨリ種々ナル反対意見起草セラレ居ルヲ以テ右討議ハ
 尚十数日ヲ要スヘク本案カ大統領手許ニ至ルハ六月十日前
 後ナルヘシト観測セラルル趣ナル新伸縮条項ハ調査ノ基礎
 ヲ生産費ノ相違トセルコト税率変更ノ範圍ヲ五割以下トセ
 ルコト必要ノ場合米国販売価格適用ヲ認メタルコト税率形
 式ノ変更及有税品無税品間ノ変更ヲ許ササルコト等大体現
 行法通ニシテ相違セル点ハ関税委員会ニ対スル調査要求ヲ
 大統領ノ外議會ニモ認メ又利害関係者ヨリノ申請及委員会
 自ラノ発議ヲ認メタルコト大統領ハ右委員会ノ報告(改正
 税率ト共ニ)受領後六十日以内ニ之カ採否ヲ決定シ裁可ノ
 場合ハ其ノ布告後十日ヲ経テ實現セラレ若モ亦大統領カ右
 六十日ノ期間内ニ其ノ態度ヲ決定セサル場合ニ於テモ右期
 限経過ト共ニ関税委員会カ前記報告ノ時日ヲ発表スルトキ
 ハ其ノ後十日ヲ経テ新税率實施セラルルコト生産費調査項
 目中ニ運賃ヲモ考慮スヘキヲ規定セルコト等主ナルモノナ
 リ

230 昭和5年6月17日

在米国出淵大使より
 幣原外務大臣宛(電報)

関税法改正案の米国議會通過と大統領声明

ワシントン 本 省 6月17日前着 発

第二一五号

往電第二一四号ニ関シ

一、過去約十五個月ニ亘ル米国関税法改正法案ハ同電ノ通下
 院通過ヲ以テ事実上終了ヲ告ケタル処右ニ関シ大統領ハ
 十五日「ステートメント」ヲ発表セルカ其ノ要旨ハ今次
 関税法改正法カ一九二八年大統領選挙戦ノ際ニシタル米国
 農業ノ保護ト低廉ナル外国労働ニ依リ競争ニ堪ヘサル一
 部米国工業ノ保護ニ関スル共和党ノ声明ヲ実行セントス
 ルモノナルコトヲ冒頭シ次テ今次改正法案ヲ過去幾多ノ米
 国関税法ト比較シタル後今次改正法案ト雖税率多岐ニ亘レ
 ルコト議會関係ノ複雑ナルコト等ヨリ決シテ完璧ナリト
 ハ認メ難キモ一方從來運用円滑ナラサリシ伸縮条項及関
 税委員会ノ組織ヲ時勢ニ適合スルカ如ク改正シタルヲ以
 テ将来状勢ノ変化ニ応シ之等ノ規定及機關ヲ通シテ必要

229 昭和5年6月(4)日

在米国出淵大使より
 幣原外務大臣宛(電報)

米国上下両院協議会の関税法改正修正案に
 対する両院での審議状況

ワシントン 本 省 6月4日前着 発

第一九四号

往電第一八三号ニ関シ

其ノ後両院協議会協議ノ結果前電所報伸縮条項中大統領カ
 六十日以内ニ関税委員会報告ノ新税率ニ対シ採否ヲ決定セ
 サル場合ニ於テモ同委員会ニ於テ右税率ヲ實施スルコトヲ
 得ヘシトノ項目ヲ削除シ且新税率實施期日ヲ大統領布告後
 三十日ト改メ(以上修正ノ結果ハ略現行法通トナリタリ)
 右両修正案ヲ付シタル協議会報告書ハ六月二日両院ニ再回
 セラレ目下付議進行中ナリ今後ノ状勢ニ関シテハ依然確タ
 ル予測ヲ困難トセラレ居ルモ与党派幹部ハ大体六月中旬迄
 ニ議會側ヲ通過シ七月一日迄ニハ大統領ノ裁可決定ヲ得ヘ
 シト予測シ居ル趣ナリ

ナル改正ヲ機敏ニ措置シ得ヘク將又今次改正ニ伴ヒ諸外
 国ヨリ改正税率ノ高キニ対スル不滿アリタルモノ之等ノ点
 モ亦今次関税委員会ヲ通シテ之カ公正ナル調節ヲ期シ得
 ヘシト述ヘ之ヲ要スルニ此ノ上本改正法案ヲ未終決ノ儘論
 議ヲ永引カシタルコトハ一層事業界ノ恢復ヲ遅カラシム
 ルモノナルヲ以テ速ニ之カ決定ヲナス必要アリト云フニ
 アリ

二、新関税法案ハ明日中大統領ノ手許ニ移ルヘク最初其
 ノ署名迄ニハ尚数日ヲ要スヘシト予想セラレ居タルモ株
 式界事業界等ノ事情ニ鑑ミ急速決定ノ必要アリトノ理由
 ヨリ明十七日中ニハ署名セラルルニ至ルヘシト報セラル
 而シテ若シ同日署名ヲ経ルニ於テハ新関税法ハ翌十八日
 ヨリ愈々實施セラルル筈ナリ

231 昭和5年6月18日

在米国出淵大使より
 幣原外務大臣宛(電報)

米国新関税法の成立と実施について

ワシントン 本 省 6月18日前着 発

第二一七号

往電第二一五号ニ関シ

新関税法本十七日大統領ノ署名ヲ了シタリ

從ツテ明十八日ヨリ実施セラル

全美各館（「ホノルル」ヲ含ム）紐育商務官及加奈陀へ転電セリ

232 昭和5年6月23日 在米国外務大臣宛
幣原外務大臣宛

米国新関税法の米国諸外国間通商条約改訂

交渉におよぼす影響

普通公第三五八号 (7月23日接受)

昭和五年六月二十三日

在 米

特命全權大使 出淵 勝次 (印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

米国新関税法ト米国諸外国間通商条約問題ニ

関スル件

今次米国新関税法ハ既報ノ如ク之カ審議ニ約十五ヶ月ヲ要

ケタル一國ナルコトハ米國側ニ於テモ夙ニ之ヲ認メ居リ然ルニ米仏通商条約ノ關係ニ於テ仏國ハ数年前米國ニ對シ最惠國待遇ヲ与フルト共ニ之カ交換条件トシテ米國関稅委員會ヲシテ仏國商品二十五種ニ對シ之カ輸入税率引下ノ數ノ調査ヲ明ニスヘキコトヲ取極メタル事實アルニ不拘右米國関稅委員會側ノ調査ハ生産費等ニ関スル調査ノ困難ナルヲ理由トシテ結局中止セラレタル關係モアリ從テ今後米仏通商条約改訂ニ當リ仏國側ノ態度如何ニ依リテ又(過日仏國商務卿ハ此種ノ態度ヲ暗示シタル旨紙上報セラル)同条約中ニ最惠國待遇ヲ存置シ得ヘキヤ否ヤ問題トナル懸念ナキニ非スト看做サレツツアリ其他「アルゼンチン」トノ關係及西班牙トノ關係ニ付テモ同様ノ事態存シ居ル趣ナリ尚本件ニ関シ米國國務省側ノ意向トシテ報セラレ居ル所ニ依レハ現ニ米國ト通商条約交渉中絶ノ状態ニアルモノハ豪州、「ボリビア」、「ブラジル」、「カナダ」、智利、「コロンビア」、「コスタリカ」、「リスアニア」、墨國、「チエッコ・スロヴァキア」、仏蘭西、和蘭、「ギリシャ」、「グアテマラ」、「パラグワイ」、「ペルシャ」、秘露、「ポーランド」、「ポルトガル」、「ルーマニア」、瑞典、瑞西、「ユーゴースラビ

シタル処右改正法案審議中ハ其税率未決定ノ状態ニ置カレ居タル關係等ヨリ爾來米國ト諸關係外國トノ間ニ交渉中ナリシ通商条約改訂問題(後記ノ如ク約二十五ヶ國ト交渉中ナリシ趣ナリ)ハ一時交渉中絶ノ状態ニ立到レル有様ナリシ次第ニシテ今般新関稅實施ト共ニ前記交渉ハ引續キ繼續セラルヘキ処今次関稅法案ニ對スル諸外國側ノ批難少カラサル關係等ヨリ今後米國カ之等ノ諸國トノ間ニ右交渉ニ際シ果シテ如何ナル程度ニ最惠國約款待遇ヲ取極メ得ヘキヤハ注目スヘキ点ナリト觀測セラレ居リ現ニ新関稅法既ニ實施セラレタルニ不拘右通商条約交渉カ今尚遲延セラレ居ル傾向アルハ一方ニ於テ曩ニ関稅法案議會通過ノ直後米國大統領カ「今次関稅法ニ對シ外國側ノ批難アルモ右ハ今後関稅委員會ヲ通シ伸縮条項ノ適用ヲ以テ之カ公正ナル調節ヲ為シ得ヘシ」云々ノ声明ヲ為シタルコト及其後大藏長官カ同様ノ發表ヲ為シタルコト等ニ省ミ果シテ右伸縮条項ニ依リ幾何ノ税率引下ヲ実行セントスルモノナリヤ米國側ノ態度ヲ見極メントスル事情モアルカ故ナリト觀測スル向アリ此点ニ関シ最近最モ注目セラレツツアルハ米仏ノ關係ナルカ仏國カ今次米國関稅法改正ニ依リ少ナカラサル打擊ヲ受

ア、「ウルグワイ」、「ベネズエラ」ニシテ今次関稅改正審議中通商条約ヲ締結シ得タルモノハ僅カニ土耳其一國ニ過キス関稅改正案審議以來交渉ヲ起コサシタルモノアルモ其他ノ大部分ハ交渉中絶ノ状態ニ置カレ居リト称セラル尚米國カ現ニ有スル通商条約國中ノ七ヶ國ハ一八五〇年以前ノ締結ニ依リ又最近四十年間ニ締結セラレタルモノトシテハ日、支、玖馬、暹羅、西班牙、「エチオピア」ノ六ヶ國ノミニシテ又歐洲大戰後ノ新興國トノ間ニハ前述ノ如ク通商条約關係ヲ有シ居ラサル趣ナリ本件ハ今次関稅改正法ノ對外關係ニ及ホス影響ノ一斑トモ看ラレ旁御参考迄報告申進ス

233 昭和5年8月22日 幣原外務大臣宛
在米国外務大臣宛 (電報)

米国新関税法の實施にともなう諸問題につき

調査方訓令

本 省 8月22日發

第一二七号

近年我國ト重要取引關係ニ在ル印度、豪州等ノ諸國カ相次

テ関税引上ヲ行ヒ之カ為現下ノ経済不況ヲ一層深刻ナラシメタルニ更ニ其後米関税ノ改正ヲ見タル為本邦ニ於テモ各国関税障壁ノ撤廃又ハ調整ヲ主張スル論者アルノミナラス貴電第二一四号米国大統領ノ「ステートメント」ニ依リ新関税ノ緩和方ニ付何等カノ期待ヲ懐キ居ル向モアリ大阪自由通商協会ノ如キハ最近主要国間ニ於ル関税制限會議ノ必要ヲ提唱シ米国ヲシテ之カ主催者タラシメントスル趣旨ノ決議ヲ為セルカ関係国政府ノ協調ニ依ル関税引下ノ如キハ目下ノ処考慮ノ余地ナシトハ思考スルモ米国新関税法ノ実施ニ関スル米国側ノ態度等ハ当方トシテモ此際出来得ル限り明確ニシテ要アリ差当り左ノ諸点承認致度ニ付何分ノ儀大要電報アリ度

(一)新関税法案ニ対シテハ国内諸方面ノ反対アリタルモ右実施ノ今日トナリテハ共和・民主両党共大體ニ於テ同法ハ当分其儘存続スヘキモノトシ本法ノ改正ニ関シテハ特別事情發生セサル限り少ナクトモ次期大統領改選迄何等手ヲ着ケサルモノト見テ差支ナキヤ

(二)本関税実施ニ対シ今日迄現実ニ報復手段ヲ採リタル国名及其ノ方法如何

一、新関税法ノ改訂時期ニ関シテハ明確ニ之ヲ判定スルコト素ヨリ不可能ナリト雖モ大體ノ形勢ヨリ見ルニ新関税法ノ是非ハ本年十一月ノ選挙戦ニ於テモ共和・民主両党間争点ノ一トシテ盛ニ論議セラルヘク現ニ民主党有力者中新関税法ハ外国貿易ヲ阻害シ経済難ヲ益々深刻化スルトノ非難ヲナス者鮮カラス今秋選挙ノ結果民主党ノ勢力増大スルニ於テハ次回議會ニ於テ再ヒ本件問題トナリ其ノ結果再改訂行ハレサル迄モ伸縮条項ノ運用ニ依ル税率ノ引下ケヲ促カスカ如キ事態發生スルヤモ計ラレスト認めラル

二、新関税法ノ審議中ニ対シ外国側ヨリ種々ノ抗議苦情等統出シタル次第ハ既報ノ通りナルカ同法実施以後ニ於テハ何等書面ニ依ル抗議等ノ事ナキカ如キ由ニテ右伸縮条項ニ関スル大統領ノ声明ヲ以テ税率引下ケノ保障ト解シ九月十七日ノ新関税委員會開設ヲ待チ居ルモノナルヘシトモ云ハレ居ル処新関税法ノ実施ト相前後シテ既ニ今日迄関税引上ケ又ハ輸入禁止等ヲ行ヒタル国ハ新聞報道等ニ依レハ十数ヶ国ニ上リ其ノ主ナルモノハ英国(米國産林檎ノ輸入禁止)、伊太利(自動車輸入税引上ケ)、

(三)前記大統領ノ声明ノ外新聞報道ニ依レハ米國政府ハ関税改正ニ対スル欧州諸国ノ反対事情及報復ノ実況調査ノ為「オクテン・ミルス」ヲ欧州ニ派遣セリトノ事ナルカ米國政府ハ真実ニ外國ノ不滿ニ対シ関税ノ調節(特ニ従来ハ税率ノ引上ニノミ利用セシ伸縮条項ヲ以テ税率ノ引下)ヲ為ス意向ヲ有スルモノト見ルヘキヤ

(四)従来米國ハ関税問題ヲ以テ移民問題同様国内事項ナリトシ諸外國ト条約ニ依ル関税率ノ協定ヲ欲セサルモノト承知シ居ル処今後モ右方針ニテ進ムモノト見テ差支ナキヤ在紐育商務書記官ニ暗送アレ

234 昭和5年8月26日 在米國出淵大使より
幣原外務大臣宛(電報)

米國新関税法ノ実施にともなう諸問題に関する
調査回答

ワシントン 8月26日後発
本 省 8月27日後着

第二六〇号
(1) 貴電第二二七号ニ関シ

西班牙(新関税実施)、仏國(「ラード」、豚肉、「チーヅ」等ノ輸入税引上ケ)等ナルカ右ニ関スル詳細ニ就テハ主務省等ニ就キ取調ヘタルモ差当り確認ヲ得ルニ至ラス尤モ何レノ國モ之等措置ノ報復ナルコトヲ否認シ居リ当國政府当局ニ於テモ此等ヲ報復措置トハ解シ居ラサル由ナリ

(2) 三、七月初メ「オクテン・ミルズ」ノ渡仏セルハ事実ナルモ政府当局ハ右ハ何等関税問題ト関連スルモノニアラスト称シ居リ又反対党ハ前項諸外國ノ関税引上ケ又ハ輸入禁止其ノ他加奈陀ノ総選挙ノ結果及最近米國ノ輸出減少ノ事實等ヲ以テ関税法ニ対スル反動ニ外ナラストシ盛ニ宣傳攻撃ニ努メ居ルモ政府及共和党側ニ於テハ外國ノ不滿ハ結局多ク憂慮スルニ足ラサルモノトシテ高ヲ括リ居ル模様ナル処伸縮条項ノ運用ニ付テハ新関税法ニ於テハ税率ヲ變更決定スルモノハ関税委員會ニシテ大統領ハ之ニ対シ拒否ノ權ヲ有スルコトナリ居ルニ付伸縮条項ノ運用如何ハ同委員會ノ顔触レニ係ル処多シトセララルルナルカ八月二十二日ニ至リ委員長トシテ前駐伊大使 Fletcherノ任命ヲ見タル外ノ五委員ハ未タ任命セラ

ルニ至ラス從テ同委員会ノ態度ニ付テハ予斷ヲ許ササル
モ Fletcherノ任命ヨリ見テ同委員会ハ對外關係ニモ相
當深キ考慮ヲ払フヘシト見居ル向モアリ
四、「キユウバ」トノ間ノ特惠協定ノ如キ特殊ノ例外ハアル
モ関税問題ハ從來原則トシテ国内問題トシテ取扱ヒ居ル
次第二シテ今後モ特別ノ事情ナキ限り右方針ハ変更セサ
ルヘシト認ムルノ外ナシ
在紐育商務書記官ニ暗送ス

235

昭和五年九月五日 田島(勝太郎)商工次官より
吉田外務次官宛

米国新関税法実施対策策定のための資料に

ついて在外公館に収集方依頼

付記一 昭和五年九月三〇日付幣原外務大臣より在

オランダ大鷹(正次郎)臨時代理公使他宛通

一普通合第一二七二号

米国新関税法実施にともなう各国の対米通

商政策について調査方訓令

二 昭和五年九月三〇日付幣原外務大臣より在
ニュー・ヨーク総領事館首藤商務書記官他
在米各総領事、領事宛通一普通合第一二七
三号
米国新関税法実施以後の米国の貿易状況に
つき調査方訓令

五貿第三七六号

昭和五年九月五日

商工次官 田島 勝太郎(印)

外務次官 吉田 茂殿

米国新関税ノ対策ニ関スル件

今般米国新関税法実施ニ依リ本邦対米輸出貿易ノ蒙ル影響
不尠モノ有之之方対策考究上参考ト致度候ニ付テハ左記ノ
点至急在外公館ニ対シ調査ノ上報告方可然御取計相煩度此
段及照会候也

記

一、新関税法ノ実施ニ依リ特ニ高率ノ税率ヲ賦課セラルル
コトトナリタルモノハ

品目	昭和三年度 輸出高(千円)	米国へ輸出高(千円)
帽子	一一、一九二	一、七九八
帽子原料	四、七一五	一、一六一
セルロイド製歯刷子	五、一一七	二、九八三
セルロイド製化粧刷子	四、二二九	一、五五〇
セルロイド製人形玩具	三、四四二	一三、七九三
陶磁器	五、二〇四	一、五一九
絹製手巾		

等ニシテ右品目中下級品ニ関シテハ特ニ其ノ受クル影響
甚大ナレハ高級品ヲシテ之ニ代ラシムルノ要アルヲ以テ
米国ニ於ケル右高級品ノ輸入状況及生産状況如何
二、右品目ハ左記ノ国ニ於テ今後需要増進ノ見込アリヤ併
セテ競争状況如何

帽子原料	帽子
英領印度(六三)	支那(一、四)
蘭領印度(六九)	香港(三六)
英領東州(六七)	英吉利(三、六)
獨逸(二、四)	獨逸(二、四)
比律賓諸島(四三)	豪太刺利(三、六)
亞爾然丁(一五)	伊太利(三、四)
	伊太利(三、四)

セルロイド製歯刷子及化粧用刷子	支那(三)	英吉利(八三)
セルロイド製人形玩具	英領印度(三、四)	英吉利(四、八三)
陶磁器	比律賓諸島(七九)	和蘭(七五)
絹製手巾	英領印度(八九)	ウルグアイ(七七)

(付記一)

通一普通合第一二七二号

昭和五年九月三十日

外務大臣男爵 幣原 喜重郎

在外公館長殿

米国新関税ノ対策ニ関スル件

本件ニ関シ本年六月十八日ヨリ米国新関税法実施セラレ我
対米重要商品中帽子、帽子原料、「セルロイド」製歯刷子、
同化粧刷子、同人形及玩具、陶磁器及レース及刺繡入手巾
等ノ関税著シク引上ケラレタル結果之等商品殊ニ下級品ノ

対米輸出ニ影響少ナカラス之カ対策トシテハ一方米国ニ対シテ右下級品ヲ補フニ高級品ヲ以テスルコトヲ計画スルト共ニ此ノ種商品ノ米国以外ノ市場ヘノ進出ヲ企図スル要アル処之カ研究上ノ参考ト致シ度キニ付別添付属主要輸出国及輸出高表(甲号)ニ依リ貴館関係ノ商品御了承ノ上今後右商品(出来得レハ高級品ト低级品トニ區別シ)ノ需要増進ノ見込及競争状況如何等ニ付テハ既ニ別途御報告済ノ事項アルモ此際右ノ趣旨ニテ一括至急御査報相成度シ尚御参考迄前記品目ニ対スル主要輸出国及輸出高表(甲号)並米国新旧税率比較(乙号)同封送付ス

本信宛先 在蘭公使、五総領事、十領事、二商務官

(付記二)

通一普通合第一二七三号

昭和五年九月三十日

外務大臣男爵 幣原 喜重郎

在外公館長殿

米国新関税法ノ対策ニ関スル件

本件ニ関シ本年六月十八日ヨリ米国新関税法実施セラレタ

本 省 9月19日後発

第一三三三号

貴電第二六〇号ニ関シ

新関税法ノ実施ノ為対米輸出ヲ主トスル我「セルロイド」製品、帽子、陶磁器、模造真珠、蛤缶詰等ハ予想以上ノ打撃ヲ受ケ他市場へ販路開拓ノ必要ニ迫ラレ居ルモ貴電御来示ノ通米国政府カ伸縮条項ニ依リ税率ノ引下ヲ促スカ如キ事態発生スルヤモ計ラレストスレハ我方トシテモ出来得ル限リ之ヲ利用シ新関税法ノ為打撃ヲ受ケ居ル商品ノ税率軽減ヲ計リ度キ所存ナルニ付本件成行ニ付テハ特ニ御留意相成ルト共ニ如何ナル方法ニ依リ関税委員会ニ「アプローチ」スルヲ有利トナスヤ例へハ貴官ヲ通シテ申出ツヘキヤ又ハ客年関税改正ノ際聴取会ニ対シ在紐育本邦当業者カ執リタル措置ト同様ノ手続ニ依ルヘキヤ追々関税委員ノ任命モ行ハルヘキニ付其ノ辺ノ事情御研究ノ上好機ヲ逸セサル様可成前広ニ電報アリタシ

紐育商務書記官ニ転電アレ



ル結果我对米重要輸出品中帽子、帽子原料、セルロイド製歯刷子、同化粧刷子、同人形及玩具、陶磁器、レース及刺繍入手巾等ノ関税著シク引上ケラレ之等商品ノ対米輸出ハ影響ヲ受ケ就中下級品ニ関シテハ影響特ニ甚大ナルモノアル処之カ対策トシテハ此種商品ノ米国以外ノ市場ヘノ進出ヲ企図スルト共ニ特ニ米国ニ対シテハ右下級品ヲ補フ為高級品ヲ以テスルコトヲ計画スル要アル処右研究上ノ参考ト致シ度キニ付米国ニ於ケル右高級品ノ輸入、生産及競争状況等至急御査報相成度シ

尚本件参考資料トシテ前記諸品目ノ主要輸出先及輸出高表(甲号)米国新旧税率比較(乙号)茲ニ送付ス

本信送付先 在紐育商務書記官、在桑港總領事、在「シカゴ」、在羅府、在「シアトル」、在「ポートランド」各領事

236 昭和5年9月19日 幣原外務大臣より 在米国出淵大使宛(電報)

米国関税委員会に対する日本商品の関税引下げ 申し立て

237 昭和5年9月19日 在米国出淵大使より 幣原外務大臣宛(電報)

米国関税委員会への日本商品関税引下げ 申し立ては不得策との意見開陳

ワシントン 9月19日後発 本 省 9月20日前着

第二七二号

貴電第一三三三号ニ関シ

一、新関税法第二百三十条ニ定ムル新関税委員会ハ旧委員会ノ存続期限タル九月十六日迄ニ総員六名中五名ヲ任命シ十七日ニ右新委員会成立シ該委員会ハ旧委員会ヨリ引継キタル往信第四七〇号生産費調査ノ件直ニ調査開始スヘキ様(脱)委員会議長ニシテ新委員会委員ニ再選セラレタル「アロサード」ハ前記調査ヲ来議會開催迄ニ完了セシムヘキ見込ナリト語レル由

二、貴電御来示ノ本邦品等ニ付此ノ際何等カノ形式ニテ再調査ヲ申出ツルコトノ可否ニ関シ過般来首藤商務書記官トモ打合中ナルカ同地当業者側トシテハ右申請ヲナス為ニハ予メ我方ニテ当該商品ノ生産費ヲ十分比較調査シタ

ル上確信アルニ非サレハ迂濶ニ提出スルコト却テ不利益ナルヘシトノ意見ニテ旁右邦商側ハ目下ノ処余リ氣乘リシ居ラサル趣ナルカ近日中同商務書記官來華ノ予定ニ付

更ニ打合ノ上何分ノ儀申進メタシ
紐育商務書記官ニ暗送セリ

3 日印綿布関税問題

238 昭和2年3月4日 在ボンベイ玉木(勝次郎)領事より
幣原外務大臣宛(電報)

ボンベイ紡績連合会会長による対日批判

ボンベイ 3月4日後発
本省 3月5日前着

第二八号
三日孟買紡績連合会総会ニ於ケル演說中同会会長ハ孟買紡績ノ不況ハ対英為替比率ヲ一八片ニ定メトスル政府ノ稅政日本ノ不正競争並ニ勞銀ノ不廉及労働能率ノ低級ニ基因ストテ從來屢々發表セル陳腐ノ意見ヲ繰返シ日本ノ競争ニ付テハ例ニ依リ日本側ヲ攻撃シタル後日本側ハ第二関稅調査委員ニ対シ二回ニ亘リ陳述書ヲ提出セルカ同調査会カ右陳述書ノ正否ヲ口述ヲ以テ確メンタメ「エビデンス」廷ニ出廷方ヲ許可シタルニ拘ハラス日本側ハ之ヲ拒絶セリ右日本側ノ出廷拒絶ハ自己ノ陳述書ノ非ニシテ支持スヘカラサルヲ立証セルモノニシテ孟買側ノ言分ト日本側ノ言分ト何レカ正確ナルヤハ此一事ヲ以テスルモ良ク判断シ得ヘシ

云々ト述ヘタリ(客年拙電第五十二号参照) 尚前記調査委員會報告書一月中旬政府ニ提出セラレタルニ拘ハラス未タニ其發表ヲ見サルハ遺憾ナリト述ヘタリ

239 昭和2年5月12日 在ボンベイ玉木領事より
田中外務大臣宛(電報)

ボンベイ紡績連合会のインド政府宛対日批判

電報について

ボンベイ 発
本省 5月12日後着

第五三号
孟買紡績連合会ハ十一日印度政府宛左記陳情電報ヲ發セリ日本最近ノ財界「クライシス」ニ基キ田為替ノ下落、資金逼迫並対支那輸出貿易不振ハ近キ将来ニ於テ日本綿糸布ノ印度市場投売ヲ企テシムル虞アリ之カタメ印度貿易ノ蒙ル打撃ハ甚大ナルヘキヲ以テ政府ハ日本ノ行動ヲ充分監視セムコトヲ希望ス